

平成30年度 高島市立学校 学校評価

マキノ東小学校	1
マキノ西小学校	2
マキノ南小学校	3
マキノ中学校	4
今津東小学校	5
今津北小学校	6
今津中学校	7
朽木東小学校	8
朽木西小学校	9
朽木中学校	10
安曇小学校	11
青柳小学校	12
本庄小学校	13
安曇川中学校	14
高島小学校	15
高島中学校	16
新旭南小学校	17
新旭北小学校	18
湖西中学校	19

学校教育目標 ふるさとを愛し 心身ともに健康で 自ら学びに挑戦する人の育成 【めざす子ども像】 ○すずんで考える人(知) ○思いやりのある人(徳) ○元気がんばる人(体)	昨年度の 評価概要 <H29学校評価の概要> ・読書量、算数の基礎的事項、漢字の習得目標は概ね達成できたが、学習規範のさらなる徹底や読解力の向上を目指し必要がある…A ・書く力の向上を目指し、授業を中心に継続指導してきたが、論理的な文章を書く力や読解力には課題がある。引き続き論理的な文章を読んだり書いたりする力を向上させる指導が必要である…B ・地域の良さを活かした学習活動や体力づくりは、ほぼ予定通り取り組めた…A ・いじめ点検やいじめ撲滅の取組、定期的な職員研修や組織対応についてはしっかり取り組めた…A	中期的 目標 ○確かな学力をつけるための園小中一貫教育の推進と着実な積み上げ ○地域と繋がる学校の構築 ○知・徳・体のバランスの取れた児童の育成(たくましく生きる児童の育成) ○びわ湖を中心とした自然や地域と共生する力の育成 ○児童の主体性を育て、生き方を学ぶ体験的な活動の推進 ○「いじめ」「不登校」のない安心・安全な学校づくり ○教職員の授業力、指導力、課題対応力の向上
---	---	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方針	学校関係者評価
■学びの基となる基礎・基本の徹底と主体的・対話的で深い学びの創造 ○「学習規律」の徹底 ○「学習習慣」の確立 ○基礎・基本の確かな定着と応用力・活用の向上 ○個の能力に応じた、きめ細かな指導・支援 ○学び合いの場で学んだことを言語化する力の向上 ○ノート指導の充実	・児童、保護者、教員による授業評価(年2回)における理解度、満足度 90%以上 ・全国学力・学習状況調査において全国平均以上 ・パワーアップタイムによる学力の向上 ・家庭学習の習慣化と内容の充実(学年×10分) ・漢字の定着に資する基礎学力の定着 ・「家庭学習チェックカード」の活用 ・学習規律の徹底と定着 ・読書活動の充実 ・読書貯金の目標達成(90%) 【1年85冊、2年90冊、3年100冊、4年50冊(内100ページ以上30冊、5、6年60冊(内100ページ以上40冊))】	児童:「授業がよくわかる」「肯定的評価」前期100%、後期98%、保護者:「わかっているようである」前期90%、後期91%。教員自己評価:「授業内容が90%以上理解できている」前期70%、後期92%であった。学習規律の徹底を基盤に、自分の考えをしっかり出し、互いの意見を認め合える集団づくりの中で、一人一人が活躍できる、わかりやすい授業を目指した。算数科のA問題(主として知識を問う)については全国平均を上回ったが、それ以外の問語A問題と、国語、算数B問題(主として活用・応用能力を問う)は下回る結果となった。児童学習規律に大変関心、算数科に対する興味も高い。どの項目も全国平均を大きく上回っており、意欲的な成長が認められる。今年度は、活用・応用能力を高めるための案を、パワーアップタイムの改善を中心に取り組んでいく必要がある。漢字検定については、しっかりと原簿に定着しており、合格者目標に到達する者が多く(7年検定以上の児童評価98%)、家庭学習の習慣化の一助になっている。学習規律については、すべての学年で徹底している。家庭学習の定着については、児童評価99%、教員評価100%であるが、一方で保護者評価77%となった。自主学習の在り方について再度検討し、質を高める必要がある。読書貯金の目標達成に向けて頑張っている児童89%であり、ほぼ目標達成できる状況である。夏の台風被災で図書室が使用できなくなったが、約200名にのぼるボランティアの方の力添えにより、順次作業が進んでいる。この間、整理ができなかった本を目的室や廊下の隅等にも本を置き換えたり、マキノ図書館と連携し、本校にできなかった本を持ってきていただいたりして、本を借りられるようになっている工夫を行った。	A	学力向上に向けて、何よりも授業改善が大切であると考え、その授業で育てるべき力を常に明確にし、日々の授業の充実と定着に取り組む。その時間の確保や振り返りをしてきておくことで確かな理解と定着の確保を図る。本年度は、週2回に分けて30分ずつ取り組んでいるが、次年度は40分間のパワーアップタイムを設定する。年間を通じた、新聞を活用した長文読解力や読解力に合うよう書く力の向上にしっかりと取り組むことで、活用・応用力の向上を目指す。漢字検定は学年の枠を外し、合格すれば自分の力で自由に読めるようになることで、さらなる意欲付けにつながる。自主学習「読書ノート」を使用し、授業で学んだことの復習に特化して学年以上で取り組む。宿題は「量より質」を問い、余った時間を読書を促す。読み聞かせるボランティアの方にお願いしている朝のお話会は児童が楽しみにしており、継続する。新読書については継続して、漢字検定やパワーアップタイムの充実のため、週3回とする。次年度は図書室の本の全面整理を計画し、より読書のある環境にする。	・昨年同様、課題に取り組む活用方法、応用力の向上の対策として、新聞の活用や読書を通じて書く、読む、聴く力をつけることは有効である。なぜ下回ったのか、その原因については詳しく分析し、より具体的な対策を講じるようにしてほしい。・家庭学習については、児童と保護者の評価の乖離が大きく、生活リズムの確立も含め、保護者の理解をより深める積極的な取組が必要である。やはり家庭学習の習慣をしっかりと身に付けてほしい。・日々の授業に関しては、児童、保護者、教職員の評価が三者とも高いのは評価できる。・考え方を養うことが大切であるので、その意味からも、読書については様々な本に接することが大切である。難しい本だけでなく、絵本を通して創造性を養えることでも大切である。本の向きは子どもが決められるものであり、多様性を目指してほしい。
■地域のおよさを生かした教育活動や豊かな人間関係や社会性を育む教育の推進	・「さめ細かな児童のみとりの対応した指導・支援の徹底」 ・「課題のある児童への組織的対応」 ・「学校に行かずにいる児童への見守りや相談の受け止め、いじめ防止の取組、仲のよい友だちがいる」の肯定的評価90%以上	児童:「学校が楽しい」「肯定的評価」前期91%、後期93%。「先生に相談できる」後期93%。「先生から認められている」前期95%、後期96%。保護者:「楽しく通っている」前期98%、後期99%。「仲の良い友達がいる」前期98%、後期99%という結果となった。概ね取組目標に到達することができた。一方で、肯定的な回答した児童に対しては、今年度も引き続き見守るとともに、次年度への引き継ぎを確実にし、継続して実施していきたいと考えている必要がある。本年度自然教室(カヤック体験、浜での清掃活動等)の取組による、達成感や感動の感動、びわ湖環境保全に対する意識の高揚・各学年で、地域のおよさを生かした活動(地域学習)や環境学習の実施。「地域に伝わる料理」「水鳥観察」「スキー教室」「湖濱清掃」「いじめ学習」等々、様々な活動ができた。	A	本年度は、多くの地域の力を支え、実地にも還元して実施することができた。どの児童にも活動の楽しさや達成感が感じられ、一回り成長した姿が認められる。「生きている湖」のわいわいについても児童に紹介できた。地域のよさを生かした活動として、「地域に伝わる料理」「水鳥観察」「スキー教室」「湖濱清掃」「いじめ学習」等々、様々な活動ができた。	・自然教室、地域活動は十分取り組んでいる。マキノ東小の地域のおよさを生かしている。豊かな人間関係、そこで育つ力、以前より評価が高まってきた。今年度も継続して取り組むべきであり、今年も環境と関係が深くなっていく。今年も自然教室、地域活動が盛んに行き、児童が地域に定着することにつながる。学校全体で地域の魅力を学ぶようにしてほしい。・児童が主体的に活動している。5、6年生の行動が自主性をもって進んでおり、小学校生活で培った力を活かしている。今後も力を発揮できるようにしてほしい。・朝の挨拶、自己有用感を高めるために、継続的に行うこと(学年に応じたそれぞれの役割を明確にするなど)を促している。・挨拶については、地域から「最近、夏下校時や途中でお金を盗まれた」といふ声や「いじめ防止の取組ができていない」といふ声も聞いている。家庭での挨拶ができていないが原因である。挨拶は挨拶ができていない、相手に伝わっていないのが現状である。一人一人の力を生かすように取り組んでほしい。
○豊かな人間性、社会性を育む、自立した人づくり ○自己有用感をもつ子どもの育成 ○いじめをしない、させない、見逃さない取組の推進 ○生徒指導、教育相談の組織対応 ○読書活動の推進 ○返事、あいさつ、くつろえの取組 ○清掃活動の充実 ○異年齢集団による「縦割り活動」の充実 ○校区全域を活動した教育活動の充実 ○カヤックによる琵琶湖西岸線断絶活動(自然教室)の推進	・1年1回の全校児童による集合活動「歌声の輪」の取組 ・「いじめ撲滅」に向けた児童の主体的な活動の推進 ・縦割り活動(異年齢集団)の充実 ・「返事、あいさつ、くつろえ」、「そうじ」の徹底した指導	単級による人間関係固定化の取組の一助となるよう、特に異年齢集団(縦割り)による活動を体系的に仕組んでいる。毎月一回の縦割り総合・遊び、縦割り掃除等は定着している。本年度の児童会活動は、「自分たちの学校をよくするために自分たちが何ができるか」という意識をもって活動できた。毎月一回の全校児童の日の設定し、全校児童で合唱している。この活動も本校ならではの取組で定着している。「自分からあいさつできた」児童90%、保護者78%、教員45%という三者の評価に繋がった。「よくできている」と同じような割合では、さらに差が開き、児童の得意意識が向上している。排除についても、その傾向は同じで、教職員の評価より児童の評価が高い、できているつもりであった。周知から見てきた結果であり、次年度以降の課題である。	A	次年度は引き続き、異年齢集団での活動や全校合唱の日の取組を推進する。子どもたちも、自分たちの学校を、自分たちの力でよりよい学校にするという意識を高めるために必要な手足を伸ばし取り組む。学校経営の一つとして掲げている凡事徹底の取組については、絶対に揺るがないものとして次年度も引き続き、徹底的に取り組んでほしい。	・朝の挨拶、自己有用感を高めるために、継続的に行うこと(学年に応じたそれぞれの役割を明確にするなど)を促している。・挨拶については、地域から「最近、夏下校時や途中でお金を盗まれた」といふ声や「いじめ防止の取組ができていない」といふ声も聞いている。家庭での挨拶ができていないが原因である。挨拶は挨拶ができていない、相手に伝わっていないのが現状である。一人一人の力を生かすように取り組んでほしい。
■体力の向上と人間関係づくりを目指した取組の充実	・フィジカルタイムや民間遊びによる体力づくりの取組の推進 ・マラン月間やなわとび月間の実施 ・遊びの中の人間関係づくり	週1回30分間のフィジカルタイムを実施している。いろいろな運動を取り入れた運動会や運動会を増やそうとしており、体力の向上に効果的だと思われている。10月のマラン月間やなわとび月間については休日の授業も含めて、集中して取り組めた。委員会活動でも「なわとび大会」「マラン大会」を開催した。	B	授業時間の増加に伴い、フィジカルタイムの実施方法を検討する必要があるが、今年度は民間団体と連携し、運動会やなわとびの反の場があることで、少しでも体力の向上につながる取組を工夫していく必要がある。	・フィジカルタイムに対する児童の思いはどうか。児童は目標を持って取り組んでいるが、目標達成ができていない児童もいる。そのための数量目標の設定等の工夫が必要である。
○体力づくりへの意欲を高め、目標達成を目指すことによる児童の育成 ○集団遊びを通じた人間関係づくりの推進 ○生活リズムの確立	・「早寝・早起き・朝ごはん」100%、家庭学習、備わりの付いた生活リズムの確立を図る取組の推進 ・アクティブラーニングを視野に入れた授業改善 ・授業力の向上をめざした研究授業の取組と、事後研究会の工夫 ・新学習指導要領完全実施に向けての研究推進	児童:「ゲームやネット等は1時間以内」前期70%、後期78%。保護者:「生活リズムができていない」前期91%、後期96%。平日3時間以上テレビやビデオを観ている児童は、5時間以上ゲームをしている児童は2名。平日読書量は97%、1日1冊以上は78%、平日1冊以上は児童9名であった。読書の読書活動数50名、うち奨励した児童37名で、13名が未読であった。本年度は、算数科における「図解」の活用による「書く力を向上させる」ことを目指し、研究に取り組んだ。また、「外国語活動」が特別の教科「道徳」の研究にも力をもち、新学習指導要領完全実施に向けた取組ができた。全教員が年1回研究授業を取り組む。授業づくりについて協議したり、市の教育研究所と連携したりすることで、教員の授業力の向上を図ることができた。	B	LINEの使用が確実に増加、低年齢化している中で、SNSに関する児童生徒、保護者の学びの場を小中一貫教育の一環として位置づけ推進する。生活リズムの確立は毎日の基礎であると思われ、保護者へ協力を、粘り強く呼びかけていく。	・「学校で生活はよいが、家庭に帰ると生活に課題がある。SNS、ゲームなどの使用や遊び、家庭学習、家庭生活の在り方を見直し、考えさせる機会を増やしたい。
教職員の力量の向上 ○「授業改善」を核とした授業力向上 ○児童をひとりの人、感性を磨く ○全教職員のパフォーマンス等を通じた、「地域と繋がる学校」の基盤づくり 保護者・地域との連携強化 ○コミュニティスクールの構築 ○学校支援ボランティア等を通じた、「地域と繋がる学校」の基盤づくり	・定期的な子どもの姿(いじめや不登校等)を全教職員が共有し、対応を協議する場の設定による早期発見・未然防止 ・組織的で迅速、的確な対応を通じた、保護者・地域との信頼関係の構築 ・学校評価の実施(年2回) ・学校運営協議会の開催(年5回) ・民生委員児童委員懇談会の開催	本年度は、算数科における「図解」の活用による「書く力を向上させる」ことを目指し、研究に取り組んだ。また、「外国語活動」が特別の教科「道徳」の研究にも力をもち、新学習指導要領完全実施に向けた取組ができた。全教員が年1回研究授業を取り組む。授業づくりについて協議したり、市の教育研究所と連携したりすることで、教員の授業力の向上を図ることができた。	A	本校の児童にだけいかに力を明確にして、その力を育むための研究を推進し、1年間の子ども達の発達を評価する。集団での対応を、自分たちで何とか解決し、自己満足で終わるようなことを減らす。自分の持っている力を最大限に発揮し、仲間との対話を通して、自分たちが何と何と解決していかせる力を伸ばしていく。	・「新学習指導要領の実施に向けた十分な取組ができていない。英語も小さい頃から慣れることが大切なのだと思う。・全校児童を全職員でとらえているが、ぜひ担任責任になんとか担当してほしい。・学校運営協議会では、様々な協議ができて、学校と地域との連携はスムーズであった。子どもは、学校だけではなく社会全体が育てるものである。それにより、いじめ等もなくなり、社会を見守る目や育てていく目である。次年度このことを共有して取り組んでほしい。・地域に求めていることは、カヤックであったり学校清掃、地域学習などの支援であるが、地域人材ネットワークづくり、組織化に向けて、具体的な取組を進めてほしい。・学校運営協議会とPTAが連携してやっていくのとよい。
総評 学校としてできることは十分に力を注いでいる。児童の学力向上、体力向上を中心とした健全育成にしっかりと輪を置き、日々学校活動に課題対応できる。特に、豊かな自然の中で学ぶこと、少人数であることを生かきめ細かな指導を行っていること、縦割り活動に力を入れていることは評価できる。自ら考え、判断し行動する力を身につけることが重要なので、主体的に取り組める活動を進めようとする。そして、広い視野を持った子どもを育ててほしい。○「知」「徳」「体」の取れた教育を○子どもの「気づき」と「意欲(やる気)」を促す取組を(子どもの可能性のページ)となるよう、多様なものに触れる機会を保障する○地域への愛着心を育てる取組のさらなる充実を(よさを体験できる場を仕組む)	学校関係者評価 評定 評定 A 本年度の学校経営の4本柱「凡事徹底の学校風土づくり」「生活リズムの確立」「人の生き方を学ぶ教育の推進」「自己有用感の確かな育成」を基盤として、具体的かつ5つの取組「学びの基となる基礎・基本の徹底」「子どもと繋がる学びの創造」「豊かな人間関係や社会性を育む教育の推進」「地域のおよさを生かした教育の推進」「体力の向上と健康な心身を育む教育の推進」は、次年度も継続して取り組む。知「知」「徳」「体」の取れた教育を展開する。様々な学習や活動の中で、子どもの「気づき」と「意欲(やる気)」を促す手足を伸ばし、子どもの可能性を信じ、育てるべき力を伸ばすという意識を共有し、教育活動を進める。(具体的改善点:上記の「改善方針」に記載)地域の思いをしっかりと共有し、そのために何が必要なのかを学校と地域が協議する中で、同じ方向性で進んでいくこと。そのために地域との繋がりを重要にして今後に向けて進んでいくこと。				

<p>学校教育目標</p>	<p>自ら鍛え自ら学ぶたくましさや人と自然と共生するやさしさをもった人の育成 (自立と共生) 「明るく、元気に、励む子」 地域とともにある学校 ～つながり響き合う教育の実践～</p>	<p>昨年度の評価概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校側の密着な指導項目のもと、子どもたちに熱心に接しておられる様子がよく見えて取れる。家庭でも子どもとともにこの内容を把握していただきたい。しかし、熱心な家庭もあれば、どうしても家庭内の甘えが出ている様子もみられる。 ・どの項目においても家庭や地域のあたりまえの生活が目標に近づき、その上で教職員の指導があっただけで子どもの目標も達成していくものと思ふ。 ・先生方の指導は、たいへん良いと思うが、「ゲームテレビ2時間以内」「家読」「靴そろえ」は、各家庭での指導で改善できると思われる。学校から保護者の方への指導(お願い)が必要だと思ふ。 ・「明るく、元気に」では、以前と比べるとまだまだのように思っている。もう少し大きな声でできればと思う。最も身につけてほしい大切な習慣だと思ふ。 	<p>中期的目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校・地域と課題と目標を共有する(保護者・住民) ・語り合い&つながり合い・協力して具体的実践ができる ○自らの成長を感じ自信が持てる(児童) ・魅力ある楽しい教育活動・自分の力が発揮できる ○子どもの姿で勝負する教育のプロ集団(教職員) ・保護者や地域住民の期待に応える ・よさを生かし課題を克服する学校経営
---------------	--	--	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評定	改善方策	学校関係者評価
<p>明るい子</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の人から生き方を学ぶ ○共生する力を育み生き方を学ぶ学習の推進 ○絆を深める集団づくり ○なかよし学級と共に歩む 	地域に学ぶ体験学習実施 100%	1年:学校周辺,2年:校区,3年:市内&水プロ,4年:県内&森林,5年:米作り,6年:福祉 地域人材を活用した授業が積極的に実施できた。	A	現状維持 キヤリア教育とも関連付ける。	進んで地域や周囲とかかわろうとする子の育成に継続して取り組んでいきたい。そのために周囲の大人、地域住民の意識の向上も必要と考える。
	夢・志をもつ子(夢カード活用) 100%	活用100%全児童が現時点での夢を抱いて頑張ろうとしている。夢をかかなるために自ら努力している子…90%	A	「夢カード」作成の手引きの改定を行う。	今の保護者自身が地域について学ぶことが少ないため、保護者と一緒に地域に学ぶ機会を持っていただき、それが家族で地域について学ぶとうるまきかけにしてほしい。
	明るい声で挨拶をする子 100%	児童…87% 保護者…86% 親子とも数字上の評価は高いが、実態としてはもう少し頑張れるように思われる。	B	啓発し、継続して指導を進めていく。	・入学式の児童たちの大きな声の挨拶については感動した。広い体育館に響いた声は、校内環境の良さを実感できた。
	大きな声で返事をする子 100%	児童…86% 保護者…78% 児童の回答が2ポイント減少し、学校と家庭での様子が違うことがみられる。	B	継続的な指導を行い、保護者へも啓発する。	
	靴そろえを意識する子 100%	児童…85% 保護者…53% 昨年度より10ポイント上まわっている。今後も、毎日頃から繰り返して指導し、家庭との協働が必要。	A	継続的に指導し、家庭でのしつけとして保護者にも啓発する。	
<p>元気な子</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体力向上・運動習慣確立 ○生活習慣確立 ○食育推進 ○いじめ・不登校ゼロの実践 	10分間運動に進んで取り組む子 100%	放課後体力作り10分間運動(健やかタイム)への取組は、全児童が積極的にやっている。毎日元気に遊ぶ児童…85%	A	健やかタイムの内容の充実と天気の良い日は外遊びを促す。	・スマホの研修会を通じて危険から身を守るように、また使用時間も短くできることを望みます。
	早寝する子 早起きする子 100%	早寝 児童…76% 保護者…76% 児童の評価では、早起きは、改善傾向にある。早起き 児童…76% 保護者…49%	B	保護者への啓発と学級活動での担任から生活習慣の改善の指導を行う。	体力向上については、基礎体力に加えて平均台やスラックラインなど平衡感覚・バランス感覚を養うようなこともしてほしい。
	ゲームテレビ2時間以内 100%	児童…70% 保護者…51% 大きな課題となっており、さらに改善が必要である。	C	PTAと連携し、ノースクリーンデーの取組やスマホ等の研修会を実施する。	指導と保護者の理解の差は、児童の理解不足があるのではと思う。
	歯科受診率 100%	79名中、受診勧告を22名に発行。 41% 9名/22名(3月1日時点) 保護者への啓発が必要である。	D	治療前後の早期受診へ向け保護者へ向けた啓発を行う。	・学校だけの取組では達成が難しい項目もあるため保護者や地域、PTAなどに協力依頼も行ってほしいと思う。
	いじめ・生活アンケート活用 100%	教育相談週間および子どもを語る会等 100% 保護者面談・関係機関との連携 等	A	現状維持	
<p>励む子</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力・学習習慣の定着 ○魅力、喜びのある授業 ○授業改善 ICT活用授業 図書室活用授業 外国語活動 ○読書の質の向上 	マ西漢字に喜んで取り組む子 100%	児童…85% 取組に個人差がある。	A	担任が個々へ声かけを行い、めざす級へ目標を決めて取り組むようにする。	・学習が楽しいと思える児童・保護者が年々数値が良くなっていくことは、教育方法が間違っていないと判断できる。
	家庭学習毎日10分×学年以上	年5回「家庭学習がんばろう週間」 100% 普段の取組 児童…83% 保護者…72% 微増	A	児童のよい実践事例を紹介し、みんなで取り組む工夫を行う。	・自尊感情をもつて学習に取り組む子を育てるためにどう意欲を高めるか保護者の協力を得ながら取組を継続していただきたいと思う。
	「家読」月一回実施(年間10回)	よく読書をしている 児童…68% 保護者…51% 微増 家庭によって実践していただくところの差が大きい。	B	PTAひびきあひ活動との連携を図る。(強化月間設定や図書貸し出しの運動)	・興味、好奇心というのは探求心やその後の展開に広がっていくと思うので「授業で好奇心を抱き、図書室でそのことを調べ、家庭でも本を読み」というサイクルを創ってほしい。
	読書の質を向上させる取組	1~3年生100冊,4~6年生80冊 上半年は冊数よりも質を高める。マキノ図書館より出張貸し出し 外部からの補助金により書籍の購入	A	現状維持	
	学習が楽しいと思える子 100%	児童…83% 保護者…92% 昨年度より増加している。	A	教員の授業力・学級経営能力の向上を図る。	
<p>生き生きとした学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会の組織確立、運営 ○PTA活動の充実 ○生き甲斐をもって働く教職員 	年間5回の学校運営協議会の開催・協議	7名の委員に地域学校協働活動推進員を含め協議を重ねた。100%	A	児童の様子も参観してもらうため昼間の開催も実施する。	・PTAや教職員の方々の児童を見守る姿勢がとても良いと思う。
	保護者が学校へ来る機会月1回以上	学校開放学習参観日 ひびきあひ活動 懇談会 行事等 100%	A	現状維持	・地域との連携を深めるため、さらに学校の情報を発信してほしい。
	学校だより月1回発行/保健だより発行/HP随時更新	学校だよりについては各区分長様を通じて各家庭へ回覧し、関係機関へ配布し、ホームページにも掲載した。100%	A	学校だよりは、改善を図りながら月1回の発行とし、ホームページの充実を図る。	・教師については、改めて研修をもつという事は難しいと思うので日頃のOJTを進めてほしい。
	登下校指導、安全点検(月1回以上)	本校の安全・安心への取組は、効果をあげていると思いますか。(保護者 94%)	A	現状維持	・学校だよりの発行、ホームページの更新もされていってよいと思います。
	全員で校内授業研究会・研修会	校内研究会等で担任全員が授業公開し、タブレット端末を活用した授業を進めた。100%	A	市教委・教育研究所の職員の招聘により指導を受ける。	

<p>学校関係者評価</p>	<p>総評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方と保護者、普段学校とかかわりのない地域住民がいかに学校の様子を知り、関われるようにいろいろな行事を通して考えてくださっていることもわかりました。なかなか参加できないのも現実ですが、引き続き考え計画して下さることを願っています。 ・市内では、最も早くから放課後子ども教室を実行され、そのおかげで児童と地域住民とのつながりが自然にようになっていく。田んぼの学校の校長先生や読み聞かせなど開かれた学校を推進しようという心意気が嬉しく思う。他の学校の見本となるよう頑張りたい。 ・教育目標の実現に向けて先生方がさまざまな努力を重ねてくださっていることがわかる一年であった。児童の成長のためにも西小学区、マキノ町の良さと課題を地域住民も真剣に考える必要があると考えている。 ・児童についてはきめ細かな対応をしていただいていると思うが、全般において家庭との連携が不可欠と思われるのでこれまで以上に連携を深めてほしい。普段の児童の様子が見えにくい者にとっては、学習発表会やスキー教室など児童の様子が見られる機会をつくっていただけたのはとてもありがたかった。それぞれの担任とは話す機会がないため今後そんな機会もつくってほしい。 ・保護者の協力が必要な項目は、達成率が低くなるのは仕方ないと思うが、おおむね目標に近づく活動内容、結果であり、たいへん良いと思う。 ・学校運営協議会で指摘したことをすぐに改善していただいている。 	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>学校関係者評価を踏まえての改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が地域の行事に積極的に参加するようにし、その際に児童が地域の方にも学校へ足を運んでもらうとを話題として働きかけていく。また、地域住民と児童があいさつなどを通して親しく交流し、通学での安全見守りなどにつなげていくようにする。さらに、学校運営協議会でも話題として地域学校協働活動推進員にも協力を求める。 ・運動会などの学校行事にも短時間でも参観していただくように地域に周知し、児童の活躍を見ていただく機会を設定していく。 ・評価の中にもあるように児童の様子について説明をするだけでなく、学習発表会などの案内を地域にも発信し、児童の学習活動を直接見ていただく機会を知らせていく。また、学校を広く開放していく企画を仕組んでいく。その一つとして社会福祉協議会との連携で地域の方に参加していただけるマキノ地区ボランティアセンター「ぬくもり広場」を開催する。 ・学年だよりや学校だより、ホームページの内容を児童の具体的な活動を中心に記述し発信していく。 ・初任者や初任期の教員が増えることからOJT推進教員を中心に短時間研修を計画的に開催して力量を高めていくようにする。内容としては、授業力向上をはじめ一般常識的なことも取り入れていくようにする。 ・スマホやSNS、ネットゲームなどPTAと協力して正しく安全な利用について研修を実施する。中学校区内の他校PTAの協力も得て、同一歩調で啓発していく。 ・家庭学習や家読については保護者の協力のもと定着するように継続して指導していく。そのために、PTA総会でも協力依頼して進めていく。
----------------	--	--------------------	---

Table with 2 columns: 学校関係者評価 (School Stakeholder Evaluation) and 中期的目標 (Medium-term Goals). The evaluation column lists items like '児童・保護者評価' and '学力アップ'. The goal column lists '『楽しく授業づくり』を通して『学習意欲』の醸成' and '『いのち・人権・人とのつながり』を大切に'.

Main evaluation table with 6 columns: 評価項目(指導力点) (Evaluation Item/Target Area), 目標:到達目標(成果指標・取組指標) (Goal: Achievement Target/Outcome Indicator/Activity Indicator), 達成状況 (Achievement Status), 評価 (Evaluation), 改善方策 (Improvement Strategy), 学校関係者評価 (School Stakeholder Evaluation). Rows include categories like '学力アップ', '心アアップ', '体力アップ', and '健康・安全教育の充実'.

Summary table with 3 columns: 学校関係者評価 (School Stakeholder Evaluation), 総評 (Overall Summary), 課題 (Issues), and 学校関係者評価を踏まえた改善点 (Improvement Points based on School Stakeholder Evaluation). It includes a large text block in the '課題' column and a detailed list of improvement points in the '改善点' column.

学校教育目標	品位・気魄・和合 「自主・自立・感謝」 キャッチフレーズ 「日本一の環境づくり」	昨年度の 評価 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・授業がわかる94%(生) ・家庭学習60分以上77% ・部活動の充実91%(生) ・月2冊以上の読書48% ・給食の完食99% ・10kmロードレースへの意欲96% ○学力向上への取り組み・・・グループ学習の充実と補充学習の徹底 ○いじめ点検・・・生徒・保護者月1回を実施 ○11時までの就寝・・・53% 自己管理を指導し、保護者にも要望 学校関係者評価より ・チャレンジウォークなどの行事は良い取組なので、安全を考慮しながら継続してほしい。 ・ボランティア活動は継続し、すすんでいる地域の活動にも参加してほしい。 ・読書指導は、家庭との連携も必要だが、継続して指導して欲しい。 ・安定した学力をつけるため、個に応じた適切な学習指導をお願いしたい。 	中期的 目標	<ul style="list-style-type: none"> □学びの姿勢の育成 □自立した生徒の育成 □豊かな心を育てる体験活動の推進 □新教育課程に向けた研鑽を積む教師 □学校・家庭・地域の繋がりを深める活動の推進 □教師の高い経営参画意識と組織対応 □個性を生かして支え合える教師集団
--------	---	---------------------------	--	-------------------	--

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方針	学校関係者評価
学力的向上 基礎基本の徹底 家庭学習の定着 学び合う学習の充実 表現・言語活動の充実 次期学習指導要領の本格実施に向けた道徳教育の推進	「授業がよくわかる」と生徒の90%以上が評価	「授業がわかる」と90%の生徒が回答。	A	B	教師が教える授業から生徒が主体的に学ぶ授業への変革を図る。 必然的に学習を行わなければならない状況を作り出す工夫をしていく。 明確なめあてを提示し、自ら深く考える授業へ改善していく。 実態を把握し、細分化された個別的・計画的な指導を行う。 本来の目的を見失わない指導を心掛け、いろいろな発表に生きる指導をする。 単位時間の中での活用計画を立て、効果的なICTの活用を推進する。 ともに考える、多角的・多面的な思考を推奨するなど道徳の探究研究を進め推進する。
	生徒90%以上が家庭学習を毎日60分以上	ほぼ毎日できたと回答した生徒は64%、保護者は50%が回答。	C		
	学び合う場面を設定した授業実践	グループ学習などで考える場面を取り入れているが、学び合いまでに届いていない授業もある。	C		
	全教職員による補充学習	年間5回のテスト週間に放課後学習として実施した。	B		
	全授業における1分間スピーチの実施	スピーチは定着している、質の向上を目指し、原稿を読まないスピーチへと発展させる必要がある。	A		
ICT機器を活用した授業実践	積極的に取り入れる、毎時間活用するなど、教科によって差はあるが活用の実績は上がっている。	B			
Aサーキットトレーニングを取り入れた道徳教育の授業研究の充実	相手の思いやる心を育てるため、学活と連携し工夫を重ね、推進していく必要がある。	B			
豊かな心づくり いじめを許さない学校づくりの推進 集団づくり・体験活動の充実 読書の推進 ボランティア活動の推進 生徒指導の充実	「いじめ点検」を月2回実施 いじめの解決 100%	「いじめを見た、した」ことがない生徒が91%。小さないじめも即座に解決し、見守りを続けている。現在継続中ではなく、解決はほぼ100%。	A	B	いじめの認識を再確認し、きさいな事象を生徒も教師も見逃さない姿勢を育てる。 活動の目的を明らかにしつらえて、今までの活動を継続し、地域に関わった活動にしていく。 参加実績を把握するとともに、地域コーディネーターを活用し、活動を継続する。 図書館の活用や全校読書の工夫などを通して、活字に慣れ親しむ姿勢を育てる。
	実行委員会を主体とした活動推進・チャレンジウォークの充実	生徒が主体となった行事の取組やチャレンジウォークは充実していた。	A		
	年間3回のボランティア活動参加	ほぼ全員の生徒が積極的にボランティアに参加した。参加実績を把握する必要がある。	B		
	月2冊以上の読書 朝読書の充実	2冊以上の読書は、1学期末では60%、2学期末で47%。朝読書は定着している。	C		
健康な心身の育成 健康な生活リズムの確立 自己管理の定着 食育の推進 部活動の充実 克服体験行事の充実	夜11時までに寝る生徒が80%	1学期はできたと答えた生徒は50%。2学期は47%。	C	A	家庭と連携し、健康管理に欠かせない睡眠の重要性を継続して訴えていく。 食を通じた体作りなどを知る機会を作るなど、継続した指導をする。 明確な方針を立て、非科学的な指導から脱却するよう改善を図る。 継続指導する。地域や保護者の協力を呼びかける。 教師に認められていると思えるような活動、実践を工夫していく。
	給食の完食 90%	給食の残食ゼロの日がほとんどであった。食の暮さをいろいろな機会に訴えた。	A		
	部活動が充実していると感じる生徒が90%以上	87%(1学期)、90%(2学期)の生徒が充実していたと回答。保護者も子どもの姿勢が積極的だったと評価しているのは90%以上。	A		
	10km ロードレースの達成感95%以上	体育祭、ロードレースの充実度は91%であった。苦しい中でも頑張れたという生徒は多かった。	A		
	「学校に来るのが楽しい」と感じる生徒が 90%以上	1学期にそう感じた生徒は79%。2学期は82%。	B		
保護者・地域とともにある学校の創造 学校運営協議会・地域学校協働本部との連携強化 学校運営協議会・地域学校協働活動の充実 学校開放日の設定 積極的な情報発信 安心安全の学校 学校評価の充実	学校運営協議会・地域学校協働本部との連携強化	学校運営協議会は定期開催できた。地域学校協働活動とのタイアップを提案して取り組んだが、積極的な参加は今年度は少なかった。	B	B	様々な情報の発信、活動の構築などに取組み、地域とつなげる活動を進める。 定期的な開放日を設定し、地域学校協働活動と連携させていく。 継続して実施する。 保護者の要望に沿った形で継続していく。
	毎月「学校開放日」を設定	行事や授業参観を含めての開催は行ったが、定期的な設定ではないので、地域学校協働活動との連携も考えていく必要がある。	C		
	「学校だより」「学年だより」の毎月発行 HPやメール等での情報	「学校・学年だより」はほぼ毎月発行し、89%の保護者がよくできていると評価した。HPは市のサーブとの関連で更新が進んでいない。	A		
	年間2回の学校評価(保護者・生徒アンケート)実施と結果公表	7月と12月に実施した。結果は改善に役立った。個々の内容については適宜対応した。	A		
	保護者対象「いじめ点検」を月1回実施	毎月ではないが、保護者を負担をかけない程度回数を実施し、内容によって即時に面談を行った。	B		
小中一貫教育の推進 キャリア教育・学力向上を軸にした取組 小中合同授業研究の実施	「夢カード」の効果的活用	「夢カード」を使った授業も展開し、キャリア教育の連続性を重視した。	A	B	「生きる力」を育てるキャリア教育になるよう、全教育活動を通して実践する。 小学校での統一した指導の上に立った外国語指導になるよう実践を積み上げる。 小学校との連携をあらゆる方面から続けていく。
	外国語活動の系統的指導計画の作成	小中一貫教育の部会で検討するため、小中合同の授業研究を中心に進めてきた。	B		
	事前研究・合同授業研究会への意欲的な参加	各教科、道徳など積極的に参加し、深まりのある研究会となった。	B		

学校関係者評価	総評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強が得意な生徒ではなく、自分の得意なことしかない、苦手なことはやらない、分からないところは放ったらかしの生徒達が楽しさを見出せて、自ら取り組もうとする課題の工夫や授業を展開して欲しい。 ・授業では、聞くだけでなく、主体的に動いて活動し、自分が勉強したいとできないような学び合いの学習の工夫に取り組むべき。 ・文章を読めないために、発想力に乏しい子が多い。読める子は書けるし、的を得たことを話せる。文章を読み解く力を付けるために、まずは慣れさせることから始めてほしい。 ・いじめの被害者心理は複雑である。人間にはどうしても人より優位に立ちたいという思いがある。仲間作りを取り組み、いじめや仲間外れに教師がすぐに気付き対応できるようにしてほしい。 ・携帯・スマホの持ち込みは本校では時期尚早であると思われる。ただしいろいろな課題が起こっている現状を踏まえ、現時点で行えるマナーやモラルの指導はしておくべきである。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に引き続き取り組む。1時間の課題(わらい)を明確にし、授業のまとめ(振り返り)を行うことで内容の深化を図る。 ・生徒自らが学ぶ授業展開を工夫する。話しを聞いて、板書を写すという授業展開からの脱却を図る。 ・朝読書など読書活動の充実を図る。個々に応じた推奨本の提示や全校読書もパターンを変えるなどの工夫をしていく。 ・1分間スピーチは、原稿を読む、原稿を覚える、原稿無しで話すなど、段階を追って進化させていくように取り組む。また、授業内容に留まらずいろいろな内容を取り入れる。 ・いじめをしない仲間づくりに積極的に取り組む。相手の思いを考えるだけでなく、その相手の言葉に感情のまま反応しないなどのトレーニングにも取り組んでいく。 ・携帯やスマホは学校には不要であるという立場を維持しつつ、現状を踏まえ、卒業後にマナーやモラルのない行動を起こさないための指導を強化する。

学校教育目標	<h2 style="margin: 0;">心身共に健全で 創造性豊かな子の育成</h2>	<p>＜H29学校評価(自己評価)＞ (児童)学校は楽しい80%、あいさつ85%、よく発表する63%、しっかり聞く85% (教員)わかる授業88%、生活習慣ルール指導78%、人権教育69% (保護者)あいさつ100%、地域行事参加90%、ゲーム・テレビの決まり80% (評議員)将来、よりよく社会に貢献することのできるために必要な学びに向かう力をつけてほしい。今津東の子どもを地域で育てるという視点が大切である。はなまる広場が地域に知られつつあることは喜ばしいことである。</p>	<p>＜中期的目標(H28～H30)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語能力の向上を図り、正しい用語による論理的な表現力の育成を図る。 ○成就感や達成感を高める行事の工夫と連帯感や充実感を深める学級づくり ○すこやかタイムの定着と保健安全指導の工夫 ○体験的地域学習の推進
--------	--	--	--

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評定	改善方策	学校関係者評価
(かंगाえ)自ら学び、課題を見つけ、考え、解決・創造する子	話す力聞く力を中心に、基礎学力を定着させる。	ひとみ(ひとりでもみんな)学習の実施、めあてと裏取りのある授業づくりに努めた。朝に応じた指導等には一定の成果は得られたものの、全体としては対話的で深い学びに至るところまで、学習集団を高めていくことができなかった。	B	全校集会での発表等を利用して共通した指導の徹底とともに、主体的対話的な学習形態づくりにも力をつける。	児童会はずっと主体となって動いているが、大人が段取りをしすぎないようにしながら進めてほしい。 学習指導は早いうちから定着させるべく、家庭とも協力しながら繰り返し取り組んでほしい。 保護者の協力は、かなりあると思われる。積極的に発信してみたらどうか。
	学習規律の確立とよくわかる授業の工夫に努める。	複数学級のメリットを生かして、通時教材研究を行うとともに、学習内容の教室掲示や壁資料の作成等、多様な手法を用いながら授業を進めた。	B	学びに向かう力をつけるべく、低学年から系統づけながら、学習規律について徹底して指導する。	家庭での聞き取りが必要な宿題は、保護者にとって、子どもの勉強の様子がよくわかり、つながりを実感する場にもなる。 わかる子が積極的に教える側にまわり、ともに高まるようとする授業づくりを期待する。
	適切にICT等を用いながら、わかりやすい授業を工夫する。	鑑賞力と50インチモニターの利用については、どの学級も必要に応じて適切に使用できているが、WBを使ったグループ発表など、ICTの活用については、指導者による技術差が大きく、異りがあった。	B	教材提示としては、おおむねよいことではできているが、授業のどの部分で何をどう示すかなど、効果的な利用法について研修する。	子どもは「わかりたい」はずなので、グループ学習や、ICT機器の利用等を工夫しながら、少しずつ改善に向かうように。
	家庭での学習習慣を身に着けさせる。	小中一貫教育にて、今年度中学校区(1学年×10分(1年生は20分))を目安として、保護者の理解と協力のもと取り組んでいる。文科省調査結果において、全国と比べると、予定にかける時間が非常に少ないことが課題である。	B	小中一貫教育で行っている取組について、今後足並みをそろえ、全校で取り組んでいく。	
(おもいやり)相手の気持ちを考え、仲間と支え合い、協力する子	人権集会・異年齢集団などを通して幅広い人権感覚を養う。	学校生活を向上させる手段として、縦割りリーダーによる発表や、人権週間の実施、児童会による人権集会の開催などを行った。児童会のトラブルまたは危険な行為によると思われる保護者来室者は前年と比べて明らかに減少傾向にある。	A	相手の気持ちを考えながら行動するということについて、繰り返し指導するとともに、児童会活動等にて児童に考えさせる場を多く持つ。	思いやり、協力、などの向上に生活面を軸とするだけでは足りないか。班で協力したり、班ごとに話し合ったりすることにより、思いやりや自己有用感が育つのではないだろうか。
	道徳の時間の充実を図るとともに、全教育課程を通じて道徳的実践力を養う。	道徳を校内研究の柱に据え、重点的内容を絞り込むことで、児童の実態に合わせた指導計画にした。講師を招いた授業研究会を複数回設定したこともあり、教員の授業力向上には一定の成果を得ることができた。	B	今年度の研究が主に保護者主体であったことから、今後はそれを補充、深化、統合しつつ、校内の生活全般へ広げて指導していく。	「話し方やことばづかいなどについては、やはりスキルとして身につけさせたい。」 中江藤樹など、高島を道徳の教材として扱っていることは、ふるさと意識を育もうと大切なことである。
	学級、学校等、集団の実態に基づき自主的な特別活動を推進する。	学級活動、児童会活動、クラブ・委員会活動等については、おおむね高評価であった。特に児童会活動において、8月の「東っ子まつり」を、児童の企画運営力を高めることともに、全校で楽しむイベントとして位置づけた。	B	自主的自発的な活動の推進を促すため、引き続き高学年をリーダーとして指導しながら、同時に下学年のメンバーシップも進めていく。	遊びがスカーレットにトラブルになっているというのは、パチパチワールドの影響も気になるところである。いろいろな方向から分析し、保護者の協力も得ながら適切な指導をしてほしい。
	適時適切な教育相談を行い、課題解決に努める。	学校生活アンケートを基に個別面談実施計画を実施し、いじめの早期発見と児童の個別理解に努めた。	B	教育相談担当を基として、今後より計画的に匿名希望のアンケートを実施し、いじめについての危険意識を高めながら早期理解に努める。	
(たくましい子)ゆめと目標・自信を持ち、ねばり強く挑戦する子	健やかタイム等を効果的に実施し、体力の向上を図る。	校内マラソン大会では、事前に一斉練習の時間を設けて、それぞれに自己目標を持たせて取り組んだ。また、ボランティアの力を借り、試走も本番同様に行うことで意気付けさせた。	B	マラソンや縄跳び等全校での取組を推進して行うとともに、普段から全員での外遊びの指導に努める。	いつのころからか自然体感がほとんどなくなった。人間の心の及ばない自然の厳しさの中でたくましさ学ぶようなことができればと思う。
	健康で安全な生活を意識させる指導を工夫する。	低学年へのフック系食口、運動と栄養食口の食育研究授業の他、学級指導においても年間計画に位置付けて計画的に実施した。ただし児童間のトラブルによるけがもあり、危機管理ハンドブックを作成し、定期的なミニ研修を開催した。	B	校内生活における安全指導では、特に廊下歩行を重点的に取り組む。	運動会の春開催により、たわや意識が向上したということは評価できる。自分たちの力で解決したり何かをやり遂げたりする経験を得ることでより集団を高めていくことができる。今後もしっかりと、自主的自発的な活動を通して学校の一つとして、東っ子秋祭を開いたことは評価できる。失敗しないように大人に段取りを先にしてもらってほしい不安がある。自分の努力がそのまま自分に返ってくるような体験も大切なので、体験を通して学ぶ行事として大切にしたい。
	学校行事を精選し、効果的に実施する。	今年度初めて運動会を春開催とした。そのことにより、たわや意識が早期から芽生え、児童会活動や学校生活の向上に寄与した。	A	それぞれの行事の目的や主旨をきちんと理解し、ねらいと手段、目標とする到達点を共通認識しながら取り組むを進めていく。	
	縦割り活動や児童会活動を通じて効果的な集団作りを行う。	春の運動会、秋の東っ子祭り、たわや遊び等により、集団意識の向上を図った。また、高学年をそうじリーダーすることにより、リーダーとしての自覚が芽生えた。	B	東っ子秋祭りなど、児童が企画運営する行事を教師が丁寧な指導することで、自治的意識を高める。	
地域を愛する子の育成	小中一貫教育の推進に努める。	今中学期において、部活動研修や相互授業研究等の教員研修の他に、清らかな環境のために2年2回のように先駆事業や一日体験入学を行った。	B	高島市小中一貫教育カリキュラムを活用した学習指導を行うとともに、一貫教育の特色が出るよう、小・小中での取り組みを工夫する。	例えば低学年のまちたんけんや今年度高学年で環境学習の面から再度取り組んでほしい。同じ地域素材を多面的にとらえることにより、縦につながる地域学習ができればいいと思う。
	保護者との密接な連携と地域への効果的な発信を行う。	今年度からコミュニティ・スクールとして再出発したことにより、学校運営協議会による学校運営への参画、また学校支援の母体となる「はなまる広場」の活動の輪がさらに広がりを現せた。	A	学校運営協議会でも承認された経営方針を具現化すべく、PTAやはなまる広場の支援を受けつつ、より一層地域へのつながりを作っていく。	学校で地域をこれだけ学んでいることはあまり地域に知られていない。学校運営協議会からも発信していきたい。
	地域の素材を活かした学習活動を行う。	昨年度の遊覧バス社会科研究会で見直した地域教材について積極的に活用している。低学年の学校周辺公共物、3年生の今津の輪づくり、4年生の淡海湖、8年生の玉塚古墳出土品等、講師を招いて学習している。	A	地域学習については、学習場での熟読のテーマにもなっていたことから、学校での取り組みのテーマとして、広く地域へ発信していく。	地域学習はそこに住む人々の思いを学ぶ場でもあってほしい。 北深清水では、緑の敷地以外、最近ではグループの敷地についても取り組まれているようなので、新しい学習の素材になるかも、ほしい。
学びあう教職員	教職員が丸となり、共通の課題に向かい、ともに高まろうとする教職員集団をめざす。	校内研究授業の事前研究では活発な協議を重ねるなど、学年および学年部等では同僚性があり、温かい雰囲気がある。	B	学校全体として、丸とこれらより、より一層学校目標に向けて奮々の力を発揮していく。	○学校ボランティアの方でも、できることを支援する方向で動いてくださっている。お願いできることあれば協力を得ながら、教職員がともに高めようとしてほしい。

学校関係者評価	総 評		評定	学校関係者評価を踏まえての改善点	
	<p>○地域学習は素材を精選し、丁寧にされているようである。学校が行っているこのような地域学習の内容は、あまり地域に知られていないので、コミュニティ・スクールの指定を受けたこともあり、広く発信していったほうが地域にとってもメリットになる。</p> <p>○地域行事への子ども参加促進は、なかなか難しい状況にあるが、機会があれば学校からも発信し支援してほしい。一方で地域と子どものつながりをつくる活動を仕組み意味から、駅前フラワーロードの維持に6年生が貢献できたことは評価できるので今後も引き継いで取り組んでほしい。</p> <p>○1年生、3年生、5年生にて高齢者と子どもとの交流活動が実施されているが、単発でなく継続的に取り組めたらと思う。</p> <p>○学校と地域が協力して、子どもに生きる力(たくましい身体や判断力、知恵等)を身につけさせたい。</p> <p>○こどもの「なぜ」を丁寧に受け止め、大切にしたい。</p> <p>○運動会の春開催による効果が明確に出たことはよかった。今後慣例化していく上でねらいをしっかりと持ち、より一層効果を上げてほしい。</p>			B	<p>○地域学習については、今後も地域の素材を厳選、洗練し、よりよいものにしていく努力を継続していく。また、オープンスクールデーなどで公開することも検討していく。さらに、CS通信やHPにも掲載し、地域のよさを地域ぐるみで共有していくことを目標に取り組んでいきたい。それとともに、高齢者に限らず、6年生のフラワーロードの取り組みのように、地域の人たちと多様な形でふれあう場を積極的に設けていきたい。</p> <p>○「こどものなぜ」を大切にしたい学習指導については、主体的な学びの原点は知的好奇心と学習、それを育む学習の進め方、すなわちどのように学ぶかを大切にしたい学習計画と実践に心がけたい。同時に学び方についても、対話的要素を取り入れ、質の高い学びとなるよう、単元計画の段階から、複数の担任が協働して研究し、学力向上につなげていきたい。</p> <p>○コミュニティ・スクールとしてのよさを今後より一層高めていくために、地域と多様なつながりを持ち、ますます高齢化の進む地域の人たちにとって、学校がよりどころの一つとなることも視野に入れ、相乗効果を期待しながら教育活動の実践に取り組んでいきたい。</p>

学校 教育 目標	すすんで やさしく たくましく	人を思いやる豊かな心と自ら学ぶ意欲 を持ち、ふるさとを愛する心身ともにた くましい子どもの育成	昨年度 の評 価 概 要	<29年度 学校評価の概要(%)> ・(児)学校が楽しい(90)、学校の勉強はわかる(89) ・(教)思考力・表現力の向上をめざし、書く活動や発表する活動を工夫 できたか。(大変だった10)(だいたいできた80) ・(評)地域に根ざし地域に開かれた学校 <B評価→B評価> ・(P)家庭での学習時間確保(76)、家庭での読書時間確保(51)	中 期 目 標 (3 年 次)	・理解力の育成とともに、正しい用語を用いながらの論理的な表現力の向上。 ・成就感、達成感を高める行事の工夫と連帯感や充実感を深める学級づくり。 ・日常的にすすんで健康と体力を高めようとする意欲を育てる場の設定及び保 健・安全 指導の展開。 ・郷土の特色を知り、ふるさとを愛する心情の育成。

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○学力の向上	思考力・表現力の育成に努め、「授業は分かる」と評価する児童と保護者を90%以上に。	よくわかると答えた割合は1、2学期を通じて80%台半ばであるが、思考力や表現力を伸ばしているかは疑問である。学習内容が本当に理解定着するための実践については検討を要する。	B	学習規律の確保。思考力や表現力を高める授業の組み立て、つけたい力を明確にした授業実践。 家庭学習の見直し。宿題のチェック方法の検討。自主学習と授業のつながりなど、検討が必要。 自分の考えを出せる授業展開の研究や、理解を深める手立としてICT機器を使った資料提示の研究等を進める。 研修会や研究会の場を活用して、新しい情報を収集して教材研究にあたる。	・家庭学習の定着に向けては、前年度からの課題となっている。何が課題であるのかを明確にして、対応策を検討する必要がある。チェック方法について家庭と協力していくシステムができるよう異と異。 毎日決められた学習課題を6年間続けられるとよい。 ・指導要領が改定されるので、教師の教材研究等の時間確保が必要である。 ・読書については、継続的に挙げられているものである。自主的な読書に任せると同時に困難かと思われる。学校の教育課程の中で時間の確保と図書の見直しや興味関心をもてる方法、内容を検討できるとよい。子ども同士で紹介しあえるものも考えてみよう。
	学力補充の充実と家庭学習の習慣化(目標:1年20分、2-6年 学年×10分)を図る。	家庭学習の課題はどの学年も同じ歩調で行えているが、宿題の質については考える余地がある。自主学習ノート、こつこつノートなど学年に応じた自主学習の取組は行われている。	B		
	発達段階に合わせて、理解力や表現力の育成を主眼とした言語活動を工夫する。	児童が自分の思いや考えを最後まで話せない。教師がどれだけ教材研究を行っているか、まだまだ不十分である。	B		
	次期学習指導要領の円滑な開始にむけて準備を進め、指導力の向上を図る。	情報収集、時数確保、教育課程編成に向けた準備が行われているが、まだ不十分である。	C		
○やさしく豊かな人格形成	縦割り活動など児童の交流の場の設定に努め、「学校が楽しい」と評価する児童と保護者を100%に。	縦割り運動会、ミニ運動会、縦割り遠足運動会などで、異学年交流ができた。89%の児童が学校は楽しいと考えているが、残りの11%の思いをくみ取る必要がある。	B	異学年による縦割り活動について、継続しながら内容については検討を重ねて実施する。 読書の大切さを、保護者や児童に伝えるとともに、図書室の経営について図書ボランティアと協力してあたり、読書の習慣化を図る。 人権尊重について、全教職員が意識をもって取り組む。PTAとも連携して取り組むことも必要である。 年度初めに、時代に合った情報機器の活用について学ぶ。教員の学びも必要である。	・いじめの事柄については、日々の教師や親の人権感覚が鈍らないように、子どもへの意識付けが必要になる。そのため呼びかけを継続する必要がある。 ・子どもが少なくなっていく今の時代には、縦割り活動は必要と思われることから、継続してほしい。 ・いろいろな教育活動を継続していくことで、いじめのない学校づくりをしてほしい。 ・いじめを多くの児童があると感じているので、いじめなし一集会の内容や道徳の時間を活用して、さらに人権意識を深めて、いじめのない学校づくりに必要がある。 ・人格形成において、感動体験を持つことが必要ではないだろうか。
	朝読書やお話会等の効果的な指導により、読書に親しみ豊かな心情を育む。「週末読書をしている」児童を80%以上に。	読書なかなか定着しない。家庭に帰った時の時間の余裕がない場合や読書に置き置いていない人がいる。読書活動が短時間であっても継続できるような取り組みにつながる活動を展開したい。	C		
	人権週間の学習や福祉体験、異年齢集団活動等を通して人権感覚を養い、「学校にはいじめがない」と評価する児童を100%に。	80%の児童が学校にはいじめがあると答えている。実際に相手に暴言を吐いたり意地悪をする事案をよく聞く。他人の人権を守る私(私たち)のことは至っていない	C		
	情報機器使用時のモラルや注意事項を学ぶ機会を設定する。	十分にできていないのが現状である。PCを使った授業での注意事項としての学びはあるが、テーマ学習としては設定していない。時代に合った学習を設定する必要がある。	C		
○基本的生活習慣の定着 ○体力の向上	家庭との連携を密にし、早寝早起きを心がける。特に、夜10時までの就寝する児童を90%以上に。	スマホやオンラインゲームを夜遅くまでやっている児童がいるが親が知らない場合が多い。21%の子が遅い。	C	PTA親子研修会のテーマに取り上げて、生活リズムの安定がはかれるようにする。 PTA総会や総代会など保護者に実情を知ってもらい、あいさつ運動を広く展開する。 これまでの取組を継続する。	・基本的な生活習慣は家庭に問題意識を持ってもらわないといけない。高学年では、自分の生活リズム等自己評価して振り返らせ、親子で話し合う機会が持てるように。 ・睡眠環境での勉強やゲームなど、視力低下の一因であることを含めて、生活リズムの安定や基本的生活習慣の定着を学校と家庭が連携して取り組むことが全体に必要と思う。 ・あいさつ運動をすることで、おはよう、さようなら、ありがとうは書えることも多くなっているが、「ごめんないといえるようにすることも必要であろう。
	あいさつや言葉づかいの指導を進め、「自分からあいさつができています」とする児童を90%以上に。	心の中であいさつをしているからOと思っている児童もいる。あいさつはできていない。	B		
	体育科での指導の工夫や体力づくりの環境整備を通して、児童の体力向上の意欲を高める。	体を動かす活動のは意欲的である。運動会や児童会の体育的行事は適度に設定され、全校児童が参加しやすい内容であった。	A		
○地域に根ざし、地域に開かれた学校	生活科や総合的な学習の時間を中心に地域教材や地域人材を生かした授業の実践に努める。(年1回以上)	いろいろな関係機関や地域の人材の協力を得て、効果的な学習を行って成果を上げた。	A	これまでの取組を継続する。 学校の動きや学級の活動などHPで紹介できるように広報活動体制を整える。 形骸化していないか検証するとともに、ブロックの取組を地道に継続および広げられるように連携を図る。	・地域の自然環境は子どもたちに、とってもよいところであり、経験すべきは、継続していき、支援ボランティアの活動等中学校区で交流して取り組み、プログラム化できることを期待する。 ・これまでの実施してきている地域とのつながりや評価するとともに、地域愛を培うことも踏まえて、維持継続できるように体制をしっかりと整えてほしい。
	地域の方や学校関係者による学校参観の機会を増やすとともに、学校だよりやHP(ホームページ)による広報活動の促進を図る。	学校ホームページは更新されないままである。システム上の問題や担当者の確保などの課題がある。紙ベースの情報提供にとどまっている。	B		
	今津中学校区一貫教育で、他校教職員との連携強化を図る。(授業、生徒指導等)	中学校区の取組はあるが、指導力の向上につながっていないのが現状である。	C		

学校関係者評価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・社会環境の変化に対して、学校の教育課程が後を追っている感じがゆがめない。不易と流行と以前から言われて久しいが、学校がすべてをやることは不可能であるということ前提にゆだねていくことが大事である。学校でやるべきことは何かを種々の機会をとおして家庭や地域に発信していくことが大事である。個々の子どもたちは地域でよく遊んでいる。特別な個別の事案は多方面の機関の協力が必要であると思う。 ・改善策について、具体的に取組むことで、それを検証することで、どこに課題があるのかが見えてくる。方法だけを話し合うのではなく、実際に取組んだ結果を検証し、そこから様々な意見が言えるようにすることで第3者が客観的に意見が言えるものとする。 ・保護者の根強い協力体制があるというものの、時代の移り変わりにより保護者の生活状況も変化してきている。様々な方法により、保護者の学校の思いを伝えて協力してもらおうことは大切なことであろう。	B	・学力の向上について、学習の習慣化を図るために、家庭学習の充実を図るため、学校と家庭の連携を強めて一体となって取り組めるようにする。そしてお互いが根気よく指導・支援を継続する。 ・いじめ等の防止に向けて、今後も日常的な情報把握に努めるとともに、児童のいじめについての認識を高める指導を進め、安心できる教育環境を整える。いじめなし一集会や道徳の時間を効果的に使って人権意識を高める。 ・読書や学習、ゲーム、ネット等、家庭との連携が欠かせない事項については、学校としての全体的な情報発信だけでなく、各学級や学単位での懇談会の場などで特に重要なことを具体的に伝えていく場を設ける。 ・地域学習を地域と連携してこれまで以上に進めていく中で、地域を愛する心情を培っていく。 ・目標を高く掲げて実践することもよいが、実際に取り組むことができる目標設定にして、共通に全教職員が取り組めるようにする。

<p>学校教育目標</p>	<p>校訓 真理の探究・正義の実践・平和の愛好</p> <p>ふるさとに愛着をもち 豊かな心と社会性を育み 夢の実現を図る生徒の育成</p>	<p>○学力の向上…C ・家庭学習を1日1時間以上(生徒55%) ・家庭学習の取組が定着している(57%)</p> <p>○豊かな心づくり…B ・道徳の授業で生き方についてしっかり考えた(生徒77%) ・体験的な活動を取り入れ様々な力が付くよう工夫されている。(保護者69%)</p> <p>○健康な心身の育成…B ・挨拶を自分からすることが不十分 部活動を頑張った(生徒95%)</p> <p>○地域連携…B ・PTA活動は保護者によく内容が伝わり充実している(保護者74%) ・学校と地域が連携を取り、子どもの教育を進めている。(保護者79%)</p>	<p>中期的目標</p> <p>○積極的に学ぶ姿勢を育成する ○豊かな心を育み体験活動を実施する ○学生会活動を充実させ、自治的・自律的な集団を育成する ○正しい判断ができる生徒、規範意識が高い生徒を育成する ○保護者や地域に信頼され開かれた学校づくりを進める ○教師の授業力を向上させる ○生徒に寄り添い率先垂範する教師集団づくり</p>
---------------	--	--	--

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善策	学校関係者評価
学力向上・学習指導	①よくわかる授業が行われている。	生徒アンケートで「学校の授業はわかりやすい」と答えた生徒が85% 保護者評価で「グループ活動を効果的に使いつかりやすい授業が行われている」と答えた保護者が84% 教職員評価で「ICTを活用してわかりやすい授業づくりができた」という教職員が70%	B	引き継ぎ、ICTの活用や少人数指導の質の向上に努め、生徒が主体的に授業に取り組めるようにする。	・学校開放日の回数を増やすなど保護者が実際に感じた評価を増やしてほしい。 ・1時間以上の家庭学習ができない生徒の率が高いが、学校からの宿題の量や質は適切であるのか検討が必要である。 ・家庭環境もあり家庭学習の時間を増やすことは難しいと思いますが家庭学習の大切さを伝えていけるのは必要です。
	②授業中自ら学び話し合い活動ができる生徒を育成する	生徒アンケートで「グループ学習で自分の意見を言えている」と答えた生徒が82% 保護者評価で「グループ活動を効果的に使いつかりやすい授業が行われている」と答えた保護者が84% 教職員評価で「学び合い 話し合い活動を取り入れた授業改善が進んでいる」と答えた教職員が61%	B	グループ学習における話し合い活動のやり方やまとめ方を何度も練習し、自分たちで考えを深められるようにしていく。	
	③家庭学習が毎日1時間以上できる生徒を80%以上にする。	生徒アンケートで「毎日1時間以上学習している」と答えた生徒が41% 保護者評価で「家庭学習の課題は適切(宿題、自主学習)である」と答えた保護者が80% 教職員評価で「家庭学習の取組が定着できている」と答えた教職員が43%	D	家庭学習の大切さを生徒にしっかりと伝え、宿題をしっかりとやり切らせる指導を徹底していく。家庭にも協力を依頼していく。	
	④朝読書、朝学習が徹底されている。	生徒アンケートで「朝学習・朝読書にしっかりと取り組んでいる」と答えた生徒が82% 教職員評価で「朝読書・朝学習の取組は定着している」と答えた教職員が77%	B	朝読書や朝学習の真中や徹底度がさらに高まるよう、集団指導と個別指導を併用して行う。	
豊かな心づくり	⑤道徳の授業の充実を図る。(年間35回実施)	生徒アンケートで「道徳の授業では自分のことと生き方について考えた」と答えた生徒が83% 教職員評価で「道徳の授業を重視し、充実が図れた」と答えた教職員が82%	B	道徳の授業向上を目指した授業研究会や道徳の研修についての研修会を充実させ、考えを深める道徳を推進していく。	・道徳教育に対する教師間の共通理解を図り、偏りの少ない道徳教育を目指してほしい。
	⑥集団を育成する行事を実施する。	生徒アンケートで「文化祭の取り組みはしっかりとできた」と答えた生徒が96% 教職員評価で「学年の団結や活力を養うための行事が実施できた」と答えた教職員が96%	A	本校の伝統である自分たちで創り上げる文化祭や体育祭を継続し、生徒の主体性や創造性を育む。	・生徒の行動を褒めたり認めたりすることも大切だが、なぜその行動をしたのか、生徒の気持ちを聞くことも大切である。
	⑦学生会活動を活性化させる。	生徒アンケートで「学生会活動は活気があり進んで活動している」と答えた生徒が83% 保護者評価で「生徒が学生会活動に積極的に取り組めるように指導・支援が行われている」と答えた保護者が86% 教職員評価で「学生会の委員会活動の活性化が図られた」と答えた教職員が57%	B	計画的に執行部活動や委員会活動、全校活動を設定し、その成果を認め、学生会活動の活性化を図る。	・生徒同士が思いやりをもって接することができるよう教職員の創意工夫を期待します。
健康な心身の育成	⑧人のためになることを意識して行動する。	生徒アンケートで「人のためになることを意識して行動している」と答えた生徒が87% 教職員評価で「人のためになることを意識して行う生徒の育成に努めた」と答えた教職員が67%	B	「人のためになることをする」という大切さを継続して発信し、生徒のよい行動を積極的に認めたり褒めたりして意欲や自信を持たせる。	
	⑨学校が楽しいという生徒を90%以上にする。	生徒アンケートで「学校は楽しい」と答えた生徒が86% 保護者評価で「日常生活の指導が丁寧になれている」と答えた保護者が79% 教職員評価で「支援が必要な生徒の情報を共有し支援の充実が図れている」と答えた教職員が87%	B	褒める機会を多く含むようにし、生徒の主体的な活動を促し生徒を認める場を積極的に作っていく。日々の声かけや教育相談活動に努める。	・「食育の考え方をもう少し取り入れたらどうか。」 ・「食育の考え方の高いのは日頃の取組の成果であると思います。でも、学校での活動が家庭で話題になるのはまだまだ少ないと思います。家庭で親子の会話が進むようなPTA活動と連携した取組ができるとよいと思います。」
	⑩毎日の清掃がしっかりとできる生徒を90%以上にする	生徒アンケートで「毎日の清掃にしっかりと取り組んでいる」と答えた生徒が99% 教師評価で「清掃指導の徹底と学校の環境美化が実践されている」と答えた教師が78%	B	清掃活動を生徒が持続できるような活動の一つとして大切に。生徒を認める場、責任感を持たせる場として引き継ぎ活動の質を高める。	
	⑪校内駅伝マラソン・体育祭に参加する生徒を95%以上にする。	駅伝マラソン大会、体育祭では90%以上の生徒が参加し、やり切ったという清々しい表情を見せる生徒が多く有意義な行事となった。また、たくさん保護者や地域の方が応援に来てくださった。	B	主体性を発揮する場、自分を認める場としての目的意識をしっかりと持たせ、伝統行事として継続していく。	
地域連携	⑫部活動が充実している。	生徒アンケートで「部活動に休まずに参加している」と答えた生徒が1学期95%、2学期97% 保護者評価で「部活動が効果的に運営されている」と答えた保護者が75% 教職員評価で「部活動の取組・運営は充実している」と答えた教師が82%	B	部活動は教育活動の一環として人間を育てることを第一とし、限られた時間の中で効果が上がるよう取り組んでいく。	
	⑬サポーター会や地域の団体との連携を進める。	保護者評価で「PTA活動は保護者によく内容が伝わり充実している」と答えた保護者が80% 教職員評価で「地域の生徒の育成を目指して、サポーター会や地域の団体との連携は継続している」と答えた教師が83%	B	サポーター会や地域の団体と積極的に連携し、学校教育に関わっていただける人口を増やしていく。	・サポーター会は、声をかけていただければいつでも用意しているので遠慮なく連絡してほしい。
	⑭地域とともにある学校づくりを進める。	保護者評価で「授業参観や懇談会の機会は適切に設定されている」と答えた保護者が88% 「学校と家庭が連携をとり子どもの教育を進めている」と答えた保護者が73% 教職員評価で「PTA活動は学校の教育活動と連携して取り組んでいる」と答えた教師が96%	B	授業や行事で地域の方に協力していただける機会を増やし、学校教育に関心をもってもらっていく。	・学校教育活動が高まるよう工夫が必要である。生徒には地域連携を進め課題への覚悟心を育てたい。 ・ボランティア活動については、生徒にどんなボランティアがしたいかアンケートをとってみるのもいいのではないかと。
	⑮生徒の地域活動への参加を推進する	生徒アンケートで「地域の活動に参加したことがある」と答えた生徒が70% 教師評価で「生徒の地域行事への主体的な参加が推進できた」と答えた教師が61%	C	生徒がボランティア活動に取り組める機会や場をさらに開拓し、地域に貢献できる生徒を育てていく。	
	⑯保護者の学校に対する満足度を80%以上にする。	保護者評価で「学校はいろいろな相談しやすい雰囲気である」と答えた保護者が80% 「学校や地域からの通信や案内は適切に配布されている」と答えた保護者が86% 「いじめなどの問題を起こらないように生活環境に配慮している」と答えた保護者が80%	B	保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、適切な情報収集を行い、悩みごとや困りごとを一掃に解決していく姿勢で臨んでいく。	

学校関係者評価	総評	<p>・全体的には、精神的かつ前向きに取り組んでおり、高評価です。 ・ほめる、認めるだけでは生徒や大人の前だけの行動になってしまう生徒もいるのではないかと思います。生徒の行動に対する思いなどを聞くことも大切だと思います。先生方も心に少し余裕を持って生徒の気持ちや思いを傾聴する時間が確保できるよう努めてほしいと思います。 ・生徒への日頃の接し方、保護者・地域へ目を向けた取り組み方は、創意工夫がなされ評価できると思います。さらに、学校・家庭・地域の三位一体の取組を推進し、充実した学校環境をつくり、生徒に思い出に残る教育活動を仕組んでいく必要があると思います。</p>	<p>学校関係者評価を踏まえての改善点</p> <p>・学力向上・学習指導については、家庭学習の充実に向け、家庭学習の大切さを生徒にしっかりと示すとともに、宿題の量や質について検討を加え、毎日1時間以上の家庭学習に結びつけられるよう、日常の発信や支援に力を入れていく。 ・豊かな心づくりについては、道徳教育に対する教職員の研修を推進する。また、生徒の気持ちや思いを聞く時間の確保に努め、生徒との信頼関係を深めることに力を入れていく。 ・健康な心身の育成については、学校行事等を通して、生徒の主体的な活動を充実させ、意欲と体力を育む。また、PTA活動と連携し、食育や家庭での会話の充実にも取り組んでいく。</p>
	評価	B	

学校教育目標	『心身ともにたくましく、ふる里を愛する 人間性豊かな 子どもの育成』
	なかよく たっしやで きばる子 (共生) (自立) (創造) 徳 体 知

学校関係者評価 B	・目標達成に向けて多様な取組が積極的になされている。少人数における学び合い・授業づくりは難しさもあろうと思われるが、きめ細やかな支援や指導ができています。 ・漢字検定、BUT、朝読書などの多面的な取組や、さらには学力向上のための学習指導在り方検討は、今後も成果が期待できる。縦割り活動や自治社会体験等の方向性はよい。 ・自然体験活動や地域に根ざした特色ある活動が、多くのボランティアや外部講師スタッフの関わりによって充実している。 ・地区内連携や保幼小中一貫教育は確実に推進されている。今後、市内大規模校などとの交流機会が持てると、児童の受け止めの幅ができる等の波及効果があると思われる。
	昨年度の 評価概要

中期的 目標	①地区『学び合い』共同授業研究継続& 小中学校スポーツデーの成功 ②学ぶ力・体力の向上 『気づき考え行動する+伝える』 ・学力向上を意識した取組の充実 ・体力向上を意識した取組の充実 ③学校力・教師力の向上 授業改善・ICT活用授業 ・楽しくわかる授業の実践 ④豊かな心の育成 ・特別の教科道徳の工夫実践 ・人間関係づくり(縦割り活動を充実による他を思いやる気持ちの醸成)

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方針	学校関係者評価	
なかよく(徳)	①仲間・集団づくり ・心に響く道徳授業 ・絆を深め認め合う集団づくり ・特別活動・縦割り活動の工夫	保護者への道徳授業公開 (各学年 1回以上/年間) 小中学校で水曜1校時を「道徳」の時間として、計画通り進める 児童集会での個人発表機会 (1回/年間)	学校開放日・授業参観の際に、各学年において公開 100% どの学年も年間計画に従って、心をばぐむ道徳授業を展開中 各学期の始業式・終業式後の児童集会において、年間1回以上実施 児童は大きな声で堂々と発表 聞く姿勢態度もよく受容的な雰囲気	A A	児童縦割り班を3から2に減じて2色4班体制で活動したが、今後も中学校と連携し運動性ある活動を工夫する。学校開放・授業参観は学期1回、道徳授業公開は月1回にする。 朽木ならではの「ふるさと」学習を継続する。学習発表の場を次年度も3学期に設定し、児童のプレゼン能力発表力を伸ばす場としたい。	道徳授業を通して自尊心を育成し、自らの考えを述べることができる児童が増えている。いじめ対応については、発信されたSOSを迷わず組織対応された。
	②共生する力・生き方学習継続 ・「オクラスプロジェクト」 ・特色ある地域学習の継承発展 ・森林 田んぼ・自然体験活動	(低学年)稚拙放流・川に学ぶ学習・町探検(中学年)・森林学習 ・どんぐりプロジェクト(高学年)朽木サイクリング 米作り 随時 キャリア教育に繋ぐ学習発表機会(1回/年間 3学期実施)	各学年部とも予定通り実施 100% 地域連携や保護者ボランティアも活用して実施 2/8に実施 全校が一室に集って学年ごとに1年間の学びを発表 学校開放日として実施したが、概ね好評を博した	A A	朽木ならではの「ふるさと」学習を継続する。学習発表の場を次年度も3学期に設定し、児童のプレゼン能力発表力を伸ばす場としたい。	学習発表会ではプレゼン能力伸長とふるさと学習の蓄積がわかり、大変効果的に素晴らしい。少人数指導・縦割り活動の充実によって、集団・仲間づくりと思いやる心の育成・意識向上につながっている。
	③特別支援教育・福祉教育推進 ・個別支援計画による指導相談 ・保護者・専門的関係機関連携 ・障がい児(者)理解教育推進	福祉教育計画的実施(社協連携) (各学年1単元/年間) 学級づくり アンケート「いじめ許さない」意識 (100%) 「いじめゼロ」児童集会・意見発表 (毎学期)	福祉協議会と連携を図り有意義に展開 100% 1年 2年 3年 4年 5年 6年 児童アンケート いじめ仲間外れしない 100% 保護者 92% 児童集会中学校区連携取組 校内放送を使った意見発表 100%	A A	子どもの立場に立った支援・相談体制と各種機関との連携をさらに図る。いじめや虐待等事案への対応連携ができる組織であり続けられるよう、体制を強化する。	
たっしやで(体)	④命を大事にする環境づくり ・命の学習・安全教育取組 ・教育相談週間計画実施 ・アンケート調査結果活用	『命の授業』246年『ストップいじめ講話』高学年(1回/年) 安全集会・避難訓練 (4回/年) 『学校が楽しい』と思う児童 (100%) アンケート調査結果活用 結果即指導対応ケース会議 随時	計画に従ってすべて完遂 安全への意識が高まっている 保護者は概ね安全に考慮されていると回答 96% 児童は8割がそう思うと回答 80% 保護者は9割強 92% 教育相談週間には児童一人一人とゆっくり話す機会を持た	A B	『学校が楽しい』と思えない子や保護者への個別相談・支援にあたる。 各種調査記述内容に即応した聞き取り面談対応に引き続き心掛ける。	スポーツデーには地域の方も大勢来校され、初の取組にして大変意義のあるものとなった。
	⑤生活習慣確立・食育推進 ・『NO!メディアウィーク』 ・『早寝 早起き 朝ごはん』 ・保健学習・食育指導の充実	『NO!メディアウィーク』の工夫実施・中学校区取組(100%) 栄養教諭による食育指導 (各学年 100%)	取組も7年目になりシートを改訂して毎学期取り組めた 100% 保護者も協力して取組記入している 担当栄養教諭とのTT指導により、計画的に指導できた 100% 学年や実態に応じた食育として効果を上げている	B A	中学校定期考査とリンクしたノーメディア取組がマンネリ化しないよう取組も、そのため、家庭教育についてPTAと連携したテーマ研修会を開催する方向で検討協議する。	小中一貫してノーメディアウィーク等に取り組んでおり、児童の成長につながっている。今後も「学校が楽しい」と思える良い学校に期待する。
	⑥体力向上策の継続 ・『健やかタイム』の充実 ・苦手種目克服・技能習得 ・みんな遊び・外遊びの奨励	地区小中学校スポーツデー (大成功) 放課後健やかタイムの実施 (4回/週) 鉄棒・輪車・縄跳び・竹馬遊び等の技を増やす児童(100%)	6月2日に晴天の下、スポーツデーを開催 大成功 健やかタイムは特別日課以外は常々と展開中 みんな遊びや健やかタイム、教科体育の時間に種々取り組めた	A B	スポーツデーについては、成果と課題をもとに次回をすでに協議立案している。小中学校教員のみならず校友会・児童会・保護者・地域の声も参考にしよりよいものにしていきたい。	
きばる(知)	⑦学力向上のための授業改善 ・「学び合い」授業の追究 ・考え合って解決する力の育成 ・高学年一部教科担任制	『授業が楽しい』『勉強がわかる』児童(100%) 学力調査・確認テスト結果活用(6年三者懇談・個別懇談会実施)	児童は9割がそのようであると回答 90% 保護者 92% 学力調査結果を全職員で分析し、学ぶ力向上対策に生かしている 調査結果は児童・保護者との懇談をもって伝え指導している	B A	少人数ならではの良さを今後も生かして、個別指導を取り入れながら児童の可能性や持ち味を引き出す学習指導を追究していく。	学び合いや主体的学び指導によって、確かな学力のみならず生きていく上で大切な力を育んでいると感じる。新しい機器・機会を取り入れて積極的に活用できている。
	⑧指導方法の工夫 ・ICT機器活用授業 ・外国語活動・道徳指導の工夫 ・朝学習の充実(漢検等)	ICT機器等を活用した授業 (毎日) 朽木東小漢字検定の実施・朝読書の定着 外国語活動・特別の教科道徳に関する共同授業研究	学年や教科によって差異はあるものの、ほぼ毎日活用 火曜日朝に漢字検定取組(10~1級) 朝読書は全学年定着 県外研修事項の伝達および地区研究授業・研究協議、校内研修により進歩指導要領への対応が研鑽できた	A B	現在企業連携により7月までタブレットを借用中であり、次年度前半期に研究研修を集中させることにより、ICT機器を活用した授業改善に取り組む。	漢字検定合格を目指す取り組みは効果的で良いと思う。家庭学習習慣は中学校に結び付くように。
	⑨学習規律確立・学習習慣定着 ・家庭学習「10分×学年」以上 ・朝読書朝学習補習授業BUT ・図書貸出冊数増(図書利用)	家庭学習時間10分×学年 (95%以上) 読書量の増加 (1・2年)180冊/年 (3年)120冊/年 (4年)100冊/年 (5・6年)80冊/年 以上	児童は8.5割ができていますと回答 85% 保護者は8割がしていると回答 80% 2学期末時点で 1年44%2年73%3年79%4年123%5年81%6年147%の進捗率である 3学期末には全学年100%達成見込み	B A	宿題や自主学習を真面目に熱心に行っている児童がほとんどであるが、予復習のやり方が中学校にしっかりつながるような指導の在り方を見直したい。	
学校	⑩地域とともに・繋がり響きあう学校 ・「コミュニティスクール」スタート ・学校情報提供・地域連携の推進 ・保幼小中の連携	・学校運営協議会・地域学校協働本部の立ち上げ・発進 ・各種広報 ・学校だより月2回、保健だより月1回、小中一貫通信学学期1回 メール配信 毎週土曜日(次週予定) HP随時更新	・朽木地区学連協・協働本部とし、市内でも独自の立ち上げをした ・各種広報については目標回数をクリアしながら発行している ・保護者調査「学校の考え方・子どもの様子」が100% ・地区コミュニティメール配信については今年度中に整備予定	B	コミュニティスクール2年目としての課題を十分察知把握して、地域・学校が相互に意義あせる関係、と地域と共にある学校を意識した仕組みを構築したい。	学校だよりやメール配信によって、学校・子どもの様子がよくわかる。「地域とともに」ができています。

学校関係者評価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	全般的に色々と工夫して学校経営や授業改善にチャレンジされていて、大変良い。園小中学校の連携がよくできていて、異年齢の子どもたちが諸活動や交流を通して、温かく優しい心を育んでいると感じた。地域団体や関係機関とも結びついている。スポーツデーは取組の枠を超えて地域に開き、盛況で来校者が増えて大成功であった。地域文化祭へ学校音楽会が参加する新たな取組も、双方向の行き来が始まったと感じた。つながりあふれるあさ教育の第一歩が踏み出せている。 学校目標達成に向けて特色をうまくアピールして学習発表会につなげていた。6学年間のふるさと学習の集大成として、体験活動と連動した積極的な取組であった。学校力と教員の指導力が高く、どの子も堂々と大きな声で発表することができていた。今後も少人数を生かした「わかる授業」「楽しい学校」を目指し、自信をもって相手に考えを伝える子どもの育成をしてほしい。	B	①小中一貫教育6年目の取組として、改善点を生かした第2回小中学校スポーツデーを開催する。 ②朽木中学校区学校運営協議会・地域学校協働本部を軌道に乗せて、地域保護者とともに9年間の育ちの中で子どもの成長を考え、目指すべき15歳の姿を共有していく。キャリア教育の視点を大事にする。引き続き市内へ「朽木OSモデル」を提唱していく。サポーター募集とその活用の仕組みを構築し、適切に運用し始めることが必要である。 ③「個に応じた・学年に応じた・つまづきに応じた」学習支援を「学び合い」研究とともに継続展開する。4年・6年学力調査結果・考察から、中学校への繋ぎを意識した授業づくりを追究する。ICT機器活用研究を加速させ、新学習指導要領に準拠した準備をする。 ④いじめ・不登校のない学校を目指すため、校内ケース会議はもとより各校・各機関と連携した組織対応を徹底する。 ⑤ふるさと学習及び森林体験学習を継続し、学年末に伝える場＝学習発表会を開催し学校内外に発表発信する。

学校 教育 目標	針畑を愛し 心身ともにたくましく生きる 心豊かな子どもの育成 ○明るく健康な子どもの育成 ○深く考えやりぬく子どもの育成 ○心豊かな子どもの育成	昨年度 の 評価 概要	○少人数の機動力を生かした取り組みを積極的に行う。学んだことを定着させるために家庭学習の習慣をつけていく。集団で学ぶ貴重な体験である東小学校との交流を計画的に行う。 ○地域の伝統や文化を生かした体験活動は今後も継続して実施する。和太鼓の演奏は、本校の特色ある教育活動として継続していく。地域の自然との関わりを通じた学習を進める。 ○あいさつがしっかりでき、思いやり協力のできる心の優しい子の育成を図っていく。 ○県内へき地校との交流は子どもにとってよい刺激になったので、継続する。	中期的 目標	針畑で学び取った力を生かして自らの志を達成するとともに、学んだことを地域や社会のために役立てよう と行動する人の育成
----------------	---	----------------------	---	-----------	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○ 明るく健康な子どもの育成 1. 適切な言葉遣いの習慣化 2. 体力の向上 3. 安全・健康への自己管理 4. 自主的、実践的態度の育成 5. 防災・安全教育の推進	①適切な挨拶、言葉遣いの定着を図る。【朝、帰り、来客時・毎学期末評価】	大きな声で気持ちのよい挨拶ができている。高学年が良い手本を示してくれて、1年生や3年生も習慣化してきた。	B	言葉遣いは、家庭とも連携し、TPOに応じて気をつけることを継続的に指導していく。	○何事にも少ない人数で取り組み、まとまりがよいこと、運動にも積極的に取り組むが、さまざまな活動も地域の方々の防災も積極的に行っている。 ○積習期でも元気に外で遊び、健康面での不安は感じられない。周囲の大人たちが知っている人ばかりなので、普段の言動に多少緊張感が欠けるように思われる。
	②長休みに全校での運動遊びを位置づけ、継続して実施する。	ほぼ毎日全員で運動遊びをすることができた。特に、マラソン、鉄棒、縄跳びなど、体育の授業と関連した運動遊びが整っていることができた。	B	子ども同士で相談して、意欲的に全校遊びができるよう働きかける。	
	③身の回りの整頓や衛生面を意識させる。	常に指導し続けたことで、学校では身の回りの整理整頓ができるようになり、衛生面に気をつけて生活する態度が身につけてきた。	B	特に手洗いやうがいの習慣化に向けて、家庭と連携しながら継続指導している。	
	④学校行事・日常活動に連なって意欲的に取り組む。【毎学期末評価】	少人数ながらも、目標に向けて全員が協力して取り組むことができた。委員会活動でも、より良い学校づくりに向け、責任をもって取り組んだ。	B	児童会活動を中心に、自主的・自治的な活動ができるよう、働きかけていく。	
	⑤保護者や地域・関係機関等と連携し、実践的な防災・安全教育を実施する。	9月に地域防災組織と合同で、地震・火災を想定した実践的な訓練ができた。また、社会福祉協議会の防災学習に保護者も参加していただいた。	A	次年度は、地域と合同の訓練に加えて、災害時の引き渡し訓練等も実施する。	
○ 深く考えやりぬく子どもの育成 1. 自分の思いを豊かに表現し、深く考える指導の工夫 2. 基礎・基本の定着 3. 家庭学習の工夫と習慣化 4. 体験を通して学ぶ学習指導 5. 保幼小中一貫教育での学びの充実 6. 外国語教育の充実	①種少人数学級での授業改善を図るため、ICT機器の活用を工夫する	日常的にICT機器を活用することで、学習意欲の持続と向上につなげることができた。基礎基本の習熟にタブレットの活用は大変有効であった。	B	子どもたちがICT機器を使う利便性を感じ、選択しながら使えるように指導している。	○少人数ならではのきめ細かな指導、基礎からの学習は、理解できないところを追求しながらわかる方向へとつなげられ、学力アップにもつながる。 ○子どもたちは、感情豊かで喜怒哀楽もはっきりしているが、感情をそのまま出すのではなく、言葉に置き換え、萎縮せずにのびのび表現できれば、深く考える力の基礎となるように思われる。
	②個に応じた指導により、学習意欲を高め、基礎・基本の確実な定着を図る。	個に応じたきめ細かな指導で、基礎・基本の底上げを図ることにつながった。単元を通して、児童が進んで課題を解決する授業展開も工夫した。	A	考えを明確にし、まとめ、発表する機会を増やすことで確実な理解につなげる。	
	③家庭学習の方法を工夫し、習慣化を図る。【家庭学習実行率100%】	児童個々に応じて、目標や興味をもって取り組める内容を課題として取り組ませた。全員、その日の家庭学習はほぼ実行できている。	A	粘り強く取り組み、内容・時間を充実させる。やったことを認め、励ましていく。	
	④地域の人、豊かな自然、文化を生かした体験学習を実施する。【年間10回】	へしこ漬、田んぼの学校、山菜採りなど、年間通して本校の特色を生かした有意義な体験活動ができた。地域訪問もねらいを達成できた。	A	各教科や領域と関連させて、事後学習を充実させ、しっかりと振り返りをさせる。	
	⑤東小学校での交流学習や中学校の出席授業に参加して、学習を深める。	東小交流は計画通り進めることができた。1年生3年生は、西小での交流も1回実施できた。中学校教員による出席授業はできなかった。	B	中学校教員による出席授業(教科担任制)や互いに行き来する交流学習を検討。	
	⑥小中一貫教育標準カリキュラムに基づき、児童の実態に応じた外国語指導助手とのIT授業を行う。	外国語指導助手による工夫された教材教具の活用が、児童の学習意欲の高まりにつながった。外国語指導助手の来校日数も昨年度より増えた。	B	外国語指導助手との事前打合せに時間をかけ、担任の思いや要望も伝えていく。	
	⑦人に感謝し、感謝されることを喜びと感じる心の育成と仲間づくりをする。	常に友達や周囲の方々に対する感謝の気持ちを持ち続け、行事等でその気持ちを行動で表すことができた。互いに思いやり仲間づくりも進んだ。	A	思いやりのある行動や言動ができるよう、「ありがとう」の言葉を大切に指導していく。	
○ 心豊かな子どもの育成 1. 人に「感謝」できる心の育成 2. いじめを許さない学校づくり 3. 考えを深め、心にひびく道徳教育の推進 4. きめ細かな教育相談の充実 5. 読書活動の推進 6. マイスクール事業の推進 7. 地域学校協働活動による子どもの健やかな成長の支援	①児童会によるいじめ防止の取組を行う。	児童会が中心となり、朽木中学校区の「いじめ撲滅宣言」の取組を本校の実態に合わせて実施。併せて、いじめ防止の標語作成・校内掲示も実施。	B	児童会で定期的に「いじめ防止の取組セルフチェック」ができるよう指導する。	○参加型の道徳参観、和太鼓演奏、読書等、心豊かな子どもを育てる活動を積極的に取り組んでいることに子どもたちが応え、成長につながっていると思う。 ○子どもたちへの目配り、情報の共有や声かけ等、細やかな教育的配慮が学校全体に感じられる。和太鼓に関しては、その教育的効果は言を待たない。素晴らしい一言である。 ○西小の子どもたちの和太鼓演奏は、迫力が感じられる。多くの人前で表現することが、一人ひとりに自信をつけるものと思う。「芸は身を助ける」と言うが、一人ひとりに特技を育ててほしいと思う。
	②道徳の授業改善を図り、地域・保護者に参画していただく工夫をする。【年間1回】	参観者にも意見をいただく機会を設けるなど、参加型の道徳参観にすることができた。指導法や評価についての研修を進めていく。	B	「考えを深める授業」に向けた展開の工夫や評価方法についての研修を進めていく。	
	③子どもと話す時間を大切にしたいきめ細かな教育相談を実施する。	子どもと些細なことでも話す機会を大事にしてきた。家庭での様子や学校生活など、子どもの思いや考えがよくわかり、指導に生かすことができた。	A	きめ細かな観察を続け、教職員で情報共有、共通理解を図る。	
	④読書の質の充実を図る。 ・毎学期末に「お気に入りの一冊」発表会。 ・朝読の充実、家読の奨励、新聞の活用。 ・読書量の目安【月:低10冊 中:5冊 高:4冊以上】	読書の習慣がついており、読書量は十分クリアできた。また、図書サロンによるブックトークや書棚の本の入れ替、読み聞かせボランティアによるお話しも定期的実施できた。「お気に入りの一冊」発表会は、3学期だけの実施であった。	B	読書する本の選び方を指導し、幅広く本に親しめるようにする。「お気に入りの一冊」発表会を定期的実施する。	
	⑤和太鼓演奏の技能を磨き、いろいろな場で発表する。	児童4名中3名が初心者であったが、2学期以降技能が高まってきた。多くの場での発表を通して賞賛を得ることで自信もつき、励みになっている。	A	引き続き練習を重ね、技量の向上に努める。外に出る発表の機会を増やす。	
	⑥学校運営協議会で目標やビジョンを共有し、子どもの地域活動への積極的な参加、地域の学校支援活動を推進する。	学校が示す目標やビジョンについて共有いただき、提言もいただいた。西地区での地域学校協働活動の在り方については、今後の課題である。	B	学校・地域の現状や課題について熟議を重ね、地域の特色を生かした取組を行う。	
	⑦学校運営協議会で目標やビジョンを共有し、子どもの地域活動への積極的な参加、地域の学校支援活動を推進する。	学校が示す目標やビジョンについて共有いただき、提言もいただいた。西地区での地域学校協働活動の在り方については、今後の課題である。	B	学校・地域の現状や課題について熟議を重ね、地域の特色を生かした取組を行う。	

学校関係者評価	総評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
○西小学校の運営は良好であると考えている。校長をはじめ教職員と保護者の間にも、諸課題を解決しようとする意志と風通しの良い話し合いの場が持たれている。関係者の不断の努力に敬意を表すと同時に、このような関係がさらに地域へと広がっていくことを望む。 ○少人数の中で地域に根ざした伝統や文化を生かした多くの体験活動は、今後の児童の未来に大きな力となっているので、今後も継続的に実施していただきたい。 ○和太鼓演奏の取組は毎年素晴らしい、子どもたちの成長に見合ったきめ細かな指導が徹底されていて、しかも子どもたちも楽しそうに取り組んでいる。地域の人たちとの関係性も良く、西小児童と教職員は西地区で愛されている。子どもたちにとって、学校が楽しい場であり続けてほしいし、教職員の自由でアイデアのある取組を、積極的に展開して欲しい。	B	○あいさつ、言葉遣いの継続指導と、児童会活動等を中心とした、主体的、実践的な態度の育成に努める。 ○自分の思いや考えを明確にし、まとめ、発表する機会を増やすなど、言語活動の充実を図ることで、豊かな表現力を伸ばす。また、地域の自然や文化、人材を活用した取組は、カリキュラムマネジメントのもと教科横断的に取り組み、子どもの興味関心を大切にしながらキャリア教育の重点として位置づけていく。 ○運動会や文化祭、ふるさと感謝祭、地域訪問等は、保護者や地域と協議の上、内容を改善して継続する。また、地域と合同の防災訓練をはじめとして、関係機関・団体と連携した教育活動を積極的に進める。 ○本校の伝統ある取組として続く和太鼓演奏は、子どもたちの表現活動の柱と位置づけ、更なる技量の向上を目指し取り組んでいく。 ○地域とともにある学校づくりを更に進めるべく、学校運営協議会が中心となって、学校・地域の現状や課題、西地区における地域学校協働活動の在り方について熟議を行う場を設けていく。	

(様式1)

平成30年度学校評価自己評価報告書

高島市立 安曇小中学校

Table with 2 columns: 学校教育目標 (School Education Goals) and 中期的目標 (Medium-term Goals). The school goal is '豊かな心と自ら学び考える意欲をもち、心身ともにたくましい安曇っ子の育成' and the medium-term goal is '基礎、基本の確実な習得と、それをもとにした活発な学力の育成、学び合い活動を活性化し、主体的に対話的な深い学びのある授業を創造する'.

Main evaluation table with columns: 評価項目(指導方針) (Evaluation Items), 指標・到達目標(成果指標・取組指標) (Indicators/Target Outcomes), 達成状況 (Achievement Status), 評価 (Evaluation), and 改善方策 (Improvement Strategies). It details various educational activities and their outcomes across different subject areas and school-wide initiatives.

Summary table with columns: 学校関係者評価 (School Stakeholder Evaluation), 学校関係者評価を踏まえた改善点 (Improvement Points Based on Stakeholder Evaluation), and 総評 (Overall Review). It provides a synthesis of feedback from parents, teachers, and the community, along with a final overall assessment.

学校教育目標 校訓 「良知に生きる」 学校教育目標 自ら学び 心豊かでたくましい 子どもの育成	昨年度の 評価概要 ・中江藤樹先生の地元であるので、青柳小学校独自の活動を継続して実践してほしい。 ・先生たちは、多方向で努力いただいていることが伺えるが、決して自己満足では無く、さらに子どもの社会性を向上させる指導をお願いしたい。 ・学級で孤立している児童や、不登校の恐れはないか注意深く子どもを見守ってほしい。 ・保護者の意見を見ると、学校がいろいろと指導していることを、保護者の理解がない意見がある。今後、児童、保護者にも藤樹教育をしてほしい。	中期的 目標 めざす子ども像 徳：たがいに思いやる子 知：よく考え実行する子 体：明るく元気な子
--	--	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・「青小学力向上アクションプラン」の点検、見直しにより学力向上を図る。 ・保護者と学校が連携し、家庭学習の習慣化を図る。	○学力の向上 ・「青小学力向上アクションプラン」を学期ごとに評価、改善を加え、実効性のあるものにする。 ・家庭学習の習慣化のため、PTAと連携して展開する。「一家庭一家訓」等。	・教職員の評価において「学力向上アクションプラン」にしたがい、基礎基本の定着に努めているは100%であった。 ・全国学力学習状況調査でそれぞれ良い結果が得られた。 ・教職員評価で「全校試写の日」や「宿題強化週間」などを通して、家庭学習の定着を図っている評価は100%であった。 ・PTAと連携し一家庭一家訓の取組を校内掲示や広報で紹介した。 ・保護者評価の「あなたのお子さんは、学習に意欲的に取り組んでいる。」は84%であった。 ・児童評価で「進んで自主学習に取り組んでいる。」は54%であった。	A B B	・特に本校が大切にしている学習規範を大切し、アクションプランを確実に実践していく。 ・下位層だけでなく、上位層を伸ばす工夫を行う。 ・生活習慣、家庭環境など児童が学習しやすくなるためには、どうすべきかということを保険者に啓発し連携を進める。 ・ただ単に勉強をしないだけでなく、キャリア教育の取組を充実させ、何故学習することが大切であるかを理解させる。	・適正な量の宿題の与え方で、よい習慣づくりができている。 ・一家庭一家訓は良い取組である。ただ、そのことが確実に実践されているかを検証することを考えてもらいたい。 ・子どもが得意とすることを伸ばし、興味づくりの仕掛けが大切である。 ・学習することの意義を説いて、自主的に学習に取り組む子どもを育ててほしい。
○言語活動の充実 ・国語科における言語活動を基盤として、各教科においてその特性を生かしながら言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を育む。 ・外国語活動を通してコミュニケーションを図る資質、能力の育成。 ○小中一貫教育の推進 ・高島市小中一貫教育標準カリキュラムを活用しめざす15才の学びを共有して各段階での教育法	○言語活動の充実 ・校内研究のテーマ「子どもたち自身が共に学び合う授業の創造」の確実な実践。 ・「考え議論する道徳」において多様な考えを大切に授業実践。 ・外国語活動を通して「聞くこと・話すこと等」の言語活動の充実。 ○現学年での学習活動が上学年でのどの学習につながるかを意識した授業作りに取り組む。	・校内研究のサブテーマは「各教科での言語活動を通して、思考力を高めながら主体的に学ぶ姿をめざして」として各教科で「考える活動」「話し合う活動」を多く取り入れることに取り組んだ。その教職員評価は100%であった。 ・第2回小中一貫フォーラムにおいて、本校の4年生の外国語活動の授業を公開し学級経営力を含めて良い評価を得ることができた。 ・保護者評価で「あなたのお子さんは、学校の学習がわかり、たのしく勉強している。」は90%、教職員評価で「児童の実態に即し、一人ひとりに分かる授業を行っている。」は92%であった。	A B A	・学習活動の基盤となる学級集団作りが何より重要である。子どもたちが互いに認め合い協力して学び合うことのできる人間関係を高める。 ・複数で学び合う活動や書くことを重点においた指導を行う。 ・教育研究所等と連携し、教職員一人一人の外国語における力量のアップをめざす。 ・教職員が絶えず教材における情報交換ができる雰囲気を作りつくり、わかった、できた実感できる授業の構築に努める。	・「褒められる」事で子どもは意欲も持つ、伸びる。叱る時には厳しく叱り、褒める時にはしっかりと褒めてやってほしい ・小学校6年生の時に、中学校に集まって合同学習があることで、入学前の子どもの不安が解消されることはすくく良い。 ・先生達も、絶えず学び姿勢で研修に努めてもらいたい。
○集団づくり ・けじめのある生活を送ることのできる集団を育成する。 ・誰に対しても思いやりの気持ちをもって接し、いじめを許さない集団を育成する。 ・異学年交流を通して、望ましい人間関係を育成する。	○集団づくり ・情報交換や、校内ケース会議を持ち、適切かつ早期に対応する。また、いじめは絶対に許さない。 ・縦割り活動や全校的な行事では自分から進んで活動している(児童評価90%以上) ・「進んであいさつや返事をしている」(児童評価90%以上)	・児童評価において、「先生は、いけないことをした時は、厳しく注意してくれる。」は99%であった。 ・生徒指導主任や児童虐待対応教員が常に中心になってケース会議を開催し、様々な課題に迅速に対応している。 ・児童評価にて縦割り活動や全校的な行事では、自分から進んで活動している。」は99%であった。 ・運動会や藤樹デー等において縦割り活動を積極的に取り入れた。 ・児童評価において「おはようございます。」「さようなら」など、進んであいさつや返事をしているは95%であった。 ・児童評価において「児童集会など多くの人が集まる場では、下級生に注意したり、静かに並んだり、話を聞いたりしている。」は97%であった。	A A A	・厳しさの中に優しさのある、優しさの中に厳しさのある指導を継続する。 ・全教職員がいじめに対して毅然とした態度で臨む。 ・本校が大切にしてきた縦割り活動を引き続き継続して取り組んでいく。 ・指導するだけでなく、教職員が常に範を示して、自らあいさつができる児童を育成する。 ・人との関わりを通して、社会性を身に付けさせる。	・いけない事を厳しく注意してもらっていることは有難い。 ・実際に学校に参観に来たり、支援に来て、先生がしっかりとあいさつやけじめをつけてくれる。どのクラスでもけじめをつけてきっちり指導されている。 ・地域でもあいさつすれば、返してくれる。 ・登校班長の礼儀がすくく良い。しっかりとそのことを引き継いでほしい。
○藤樹学習と地域との連携 ・学校運営協議会、地域学校協働本部が一体となった学校、地域づくりを行う。 ・地域の文化や伝統を取り入れた体験的な活動を実践する。	○藤樹学習と地域との連携 ・「学校では藤樹先生に関係ある勉強をやっている」(児童評価90%以上) ・「掃除をがんばっている」(児童評価90%以上)	・児童評価において、「学校では藤樹先生について勉強している。」は97%であった。この項目は昨年度80%台であったため大きく上昇した。 ・児童評価において、「そうじを頑張っている。」は97%であった。 ・藤樹ディや大洲小との電話交流会も確実に実施できた。 ・10月以降、学校支援も大幅に増加した。	A A	・様々な場面で中江藤樹先生の教えを理解させ、藤樹先生生誕の地を校区にもつことを児童の誇りにさせる。 ・地域学校Coとの連携をさらに進める。 ・関わることをテーマに、子どもにもコトコト関わることを確実に実践する。 ・単学級のため担任の力量によって学級経営が左右される。その解消のため絶えず児童の情報交換や教材に関する助言等を話せる職員室を進める。	・地域貢献を学級活動の時間等を活用して試みてほしい。 ・学校と地域との連携を充実させる事で、地域の方も学校に来る事で元気をもらっている。さらに学校を地域に開いてほしい。 ・教師も学ぶことが大切、力量をさらに上げていってほしい。
○教職員の資質向上 ・子どもの力を引き伸ばす教職員の実践力の向上。 ・言語活動の充実等、本校教育の重点内容の研修に努める。	○教職員の資質向上 ・子どもにコトコト関わる。(学習や運動など) ・積極的な研修への参加とOJTの推進	・一日を通して、朝から下校まで子どもへの声かけ、見守り活動を組織的に行った。 ・大垣女子短期大学より、特別支援教育の権威である松村教授を2回招聘し研修会をもった。さらに校内研究会では授業実践ではなく、各自が参加した研修会の報告会を開催した。 ・放課後を中心として児童や教材研究の事で話が飛び交う職員室になっている。若手教員、中堅教員、ベテラン教員が互いに学び合う雰囲気がある。	A		

学校関係者評価	総評 ・中江藤樹先生の生誕の地であるという誇りをもって、青柳小学校独自の教育活動を継続して実践してほしい。 ・青柳小学校独自の「一家庭一家訓」の取組を継続し、そのことの振り返りをしてほしい。 ・学習することの意義をキャリア教育の観点から子どもに意識させてもらいたい。 ・例えば集会したら静かに待つという、次の事を考えられる子どもになってもらいたい。 ・学校と地域の連携をより一層、充実してもらいたい。 ・いじめを見逃すことなく、初期の段階でしっかりと厳しく指導してもらいたい。	評価 A	学校関係者評価を踏まえての改善点 ・青柳小学校の学校経営の重点である「中江藤樹先生の教え」をしっかり和継続していく。また、その教えを実践することが自分の夢や目標を実現する力となることを意識させる。 ・青柳小学校が大切にしている、学力の向上の根本は学習規律の確立にあることを全教職員が意識して指導していく。 ・また、子どもにとことん関わり、一人一人の良さを見つめ認めることを意識して取り組む。 ・縦割りを基本とした異学年交流を充実させ、上級生としての自覚をもたせ、下級生が「自分も何年後かにそんな上級生になりたい」と思えるような雰囲気醸成させる。 ・保護者との連携を強め、普段から良い関係を築き、家庭と共通認識をもって指導していく。 ・今年度の学校支援と地域貢献を確実に実践させ、地域との連携をより深める。
---------	--	---------	--

学校教育目標 校訓「たくましい子 本庄の心」 主体的にけじめのある生活を送り 思いやりの気持ちを表現できる子ども	昨年度 の 評価 概要	・96%の児童が「学習内容を理解している」と自己評価していることは素晴らしい。その理解度の信憑性を把握しつつ、100%をめざしてほしい。 ・感謝の心、思いやりの心等を育む教育に力を入れていることがよくわかる。自己肯定感が高いことも素晴らしい。さらに創意工夫をし、「たくましい子」となるよう継続してほしい。	中期的 の 目標	○自ら学び、考え、表現し、行動するたくまさを育む教育 ・主体的に課題解決に取り組み、高め合う学習活動を推進する。 ○学力の向上をめざした教育活動の推進 ・思考力、判断力、表現力を育成するための言語活動を充実させる。 ○豊かな心、たくましい体を育む教育活動の推進 ・様々な体験を通して、心身ともにたくまさを育む。
--	----------------------	---	----------------	--

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価	
確かな学力の定着	「学習がわかる」90%以上 話し合いを中心とした授業で一人一発言	児童アンケート結果 A:72%、B:25%、C:3%、D:0% 保護者アンケート結果 A:31%、B:59%、C:10%、D:0% (教師)意見交流の場の設定 A:25%、B:75%、C・D:0%	B	A	話し合い活動の内容が深みのあるものとなるよう工夫し、思考力、表現力を高める。 けじめのある生活を、児童自らが主体的に考え、行動できるよう指導する。 定着しつつある家庭学習の習慣化を継続しつつ、その内容のレベルアップを図る。	「学習がわかる」児童の「C:3%」が0%になるよう指導してもらいたい。 話し合いを中心とした授業で一人一発言を目標にしているところがすばらしい。自分の言葉で話そうと努める中で思考力や表現力もついてくると思う。
	けじめのある生活を送る 90%以上 (今することに一生懸命になれる)	児童アンケート結果 A:60%、B:35%、C:5%、D:0% (教師)「けじめ」の指導 A:40%、B:60%、C・D:0%	A			
	家庭学習 低20分、中・高10分×学年	児童 A:82%、B:11%、C:7%、D:0% 保護者 A:33%、B:49%、C:14%、D:4% (教師)学習内容の工夫 A:14%、B:86%、C・D:0%	A			
心身のたくましさの充実	はっきりした声で挨拶や返事をしている子 90%以上	児童 A:72%、B:21%、C:7%、D:0% 保護者 A:33%、B:57%、C:9%、D:1%	B	B	あらゆる場面でしっかりと挨拶ができるよう指導しつつ、保護者にも協力を依頼する。 努力が必要な活動の設定を工夫し、その努力や結果に対して褒める場面を多くする。 適切な目標設定を行い、その努力と結果をたたえることで、更に挑戦する意欲を育てる。	自己目標を設定し、達成をめざすのはすばらしい取組である。 人は一人ひとり違う生き物であり、自分の中にある一番を誇らしげに持つ人に育ってほしいし、それを生かせるシチュエーションを自ら作れる人を育ててほしい。
	自尊感情を高くもつ子 90%以上	1学期末 A:68%、B:20%、C:8%、D:4% 2学期末 A:69%、B:22%、C:3%、D:6%	B			
	自己目標の達成(マラソン、遠泳等) 90%以上	1学期末 A:93%、B:3%、C:3%、D:1% 2学期末 A:88%、B:11%、C:1%、D:0%	A			
豊かな心の育成	豊かな心の育成のための感動体験を仕組む	スクール農園でのサツマイモの栽培と収穫、焼き芋を実施した。 遠泳、運動会、マラソン大会等で目標を高く設定し、達成感、充実感を実感させることができた。	A	B	たてわり活動を多く設定し、成し得たことが自らの努力の結果であることや、周囲の支えでできていることを実感させる。 たてわり活動をより多く設定し、関わる周囲の児童に対しての思いやりの気持ちをしっかりと表現できるようにする。 道徳の授業研究を、校内での研修に位置づける。人権週間での取組は継続する。	たてわり活動は今後も継続してほしい。 道徳の授業は大切と思うが「みんな違ってみんないい」もベースにしてほしい。
	友だちを大切に、呼びすてをしない子 80%以上	1学期末 A:77%、B:19%、C:3%、D:1% 2学期末 A:78%、B:21%、C:1%、D:0%	B			
	道徳授業の充実(考え、議論する授業) 人権週間における人権学習の取組	授業参観等で公開授業を実施した。 人権週間で、自分の周りのやさしさや、友だちのステキなところを再発見する取組を行った。	B			
地域、保護者と連携した安心安全で開かれた学校	計画的な授業参観 学校の取り組みがわかる学校だよりの発行	授業参観への保護者の参加率は、毎回95%以上。 学校だよりの発行、学級だよりの発行、保健だよりの発行し、学校生活の様子を伝えている。	A	A	学校だよりの発行、学級だよりの内容を工夫し、子ども達の学校での様子を保護者や地域の方に的確に伝える。 避難訓練に真剣に取り組む状況を崩すことなく、万が一への備えを確実に行う。 安曇川地区小中一貫教育の取組、特に授業研究に深く取組む傍ら、小学校6年間の系統性を強く意識する。	学校からの協力要請があったとき、できることは協力していきたい。そのような気持ちを持っている人は地域にたくさんいると思うので、いかに多くの人に知ってもらうかが重要。 保、小、中の段階を子どもたちにソフトランディングさせる取組は立派である。
	効果的な避難訓練 定期的な安全点検	年間5回の避難訓練に、児童は真剣に取り組んでいる。 校内の設備について、毎月複数の目で点検している。	A			
	小中一貫教育の取組の推進 保小連携の強化	安曇川地区の小中教職員が合同で授業研究会等を行っている。 6年生に年間3回の安曇川地区合同学習を実施。 5年生に保育体験活動、保育園児に体験入学を実施。	B			

学校関係者評価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・本庄小学校は、他校にない地域や保護者との関係を保って学校運営をしている点で、大いに評価できる。 ・保護者との連携は今後も継続していき、地域との関わりが増えるよう考えてほしい。 ・学習面で「目標を十分またはほぼ達成」と自己評価している子が97%というのはすごいことである。しかし、目標はあくまで「Aが100%」である。 ・マラソンや遠泳で自己目標を設定し、それを達成した児童の満足した顔が印象的でうれしく思う。「自己目標」としたところが大変よい。 ・全体的に子どもたちも先生たちもよく頑張っている。しかし、そんなときこそよいものを過度に求めやすくなるので、注意願いたい。		

学校 教育 目標 『確かな知性 かがやく良知 たくましい心身』	昨年度 の 評価 概要	「チーム安曇」への地域の意識が高まり、生徒の活動がより活発化した。スポーツや行事に、その成果がよく現れている。日常生活にも、しっかりと取り組める生徒がたいへん多かった。生徒の素晴らしい様子や、地域が誇りに思うところが、安曇川地域の強みである。教育活動全般にわたって、「今年の活動はAしかないでしょう」という学校評価委員の声からも、今年度の安曇川中学校の教育活動は、確かなものだったと考える。次年度は、コミュニティスクールのスタートである。学校評価委員の方々が、より力強く応援して下さるということがよく感じられ、1全ての方を学校に1に向けて、取組を行う。	中期的 目標	地域に誇りと愛着をもち 地域に役立ち 貢献できる生徒の育成
---	----------------------	--	-----------	-------------------------------------

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方案	学校関係者評価
○小中一貫教育を推進する ・小中一貫した児童生徒の交流と学習指導を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校をつなぐ児童生徒の交流活動)に取り組みます。 ・小中学校教員による共同授業研究等の 取組を推進します。 	小中学校合同学習を中学校で年3回実施した。小中教員のIT授業・中学生が指導する部活動体験・道徳授業を行った。アンケートでは生徒「新しい友達もできたし、中学校での授業の受け方も知ることができたので、安心して中学校に行けると思った。」中学校への入学楽しみ(95%)保護者「中学校への期待をもち、楽しみにしている様子が見えた。教員「中ギャップの解消には大変有効であった。中学生もよがらばっていた。」	A	継続してきたことで成果は出ている。回数も回数増えつつある。内容も中ギャップの解消には間違いなく効果がある。教科についても、小中の教員が一緒になり取り組むことはとても大事である。保護者の立場としても小学校の基礎がとも重要であるとの理解を深めてもらいたい。ただ、家庭学習の定着については子どもたちの意識が低いことが大きな課題である。フーズクリーンセンターなども取組がマンネリ化しているのではないか。家にスマホ、タブレット、ゲームなど環境が今までは違う。学力向上を9年間のスパンで進めていくことを中心に、小中一貫教育を今後もさらに充実してもらいたい。	合同学習について、子どもたちが交流ができた。授業や部活動体験が楽しかったなど楽しく過ごせたことが何より成果である。むしろ、もっと回数を増やせばよい。中ギャップの解消には間違いなく効果がある。教科についても、小中の教員が一緒になり取り組むことはとても大事である。保護者の立場としても小学校の基礎がとも重要であるとの理解を深めてもらいたい。ただ、家庭学習の定着については子どもたちの意識が低いことが大きな課題である。フーズクリーンセンターなども取組がマンネリ化しているのではないか。家にスマホ、タブレット、ゲームなど環境が今までは違う。学力向上を9年間のスパンで進めていくことを中心に、小中一貫教育を今後もさらに充実してもらいたい。
○確かな学力を育成する ・一人ひとりの学力を高める授業改善を推進する。 ・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びを推進する。 ・学力向上スタンダード8の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの理解状況やつまずき状況 に応じた学習指導を充実します。(授業がわかる:生徒80%保護者60%) ・家庭学習に意欲をもたせる校内研究を 推進します。(家庭学習の習慣化:生徒50%) 	全国学力学習状況調査結果は国数(理)ともに平均点は高い。特にどんな問いに対してもしっかり取り組んだ姿勢が見えた。アクションプランにより進捗させるために学び合い学習を全学年で取り入れた。授業に向かう生徒の主体性などに成果が出ている。まだまだ課題は残った。	A	学力学習状況調査に向けての取組や結果を分析して職員で共有する。日頃からスタンダード8についてさらに意識を高めた。家庭学習はさらに保護者と連携する。	学び合い学習を柱に授業づくりをすすめることは評価できる。生徒たちから「わかりやすい。先生は熱心である。」と出ていることもよい。学力向上の点を考える上では課題が多くある。「課題は勉強しない」とばかり言えない。親としては当時は勉強を強制したなどの環境ではなかった。高校進学後の状況も前とはずいぶん違う。塾に行かせるべきか、など保護者としての悩みを多く取りついている。ただし、学習意欲の向上と引き換えに学力はしっかりと守らなければならない。教師と子どもとの約束ごととして大事なことなので生徒に(約束を守る)が期待したら自然にモチベーションもあがり、男女関係の正しい活動は集団づくりとしても有効であり、人向き合いとして将来的にもとても大切である。
○豊かな心を育成する ・豊かな情操や規範意識、社会性、人を思いやる心を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を通して、豊かな心を育みます。1年:地域探訪 2年:ワールドびわ湖 3年:体験的進路学習 	平成31年度の道徳の教科化に向けて、道徳教育推進教師を中心に研修を深めている。本年度は資料研修、OJT研修、学年ごとの研修で授業改善が進んでいる。指導方法・評価についても次年度の先行実施に向けて確実に進んでいる。	A	本年度は学年毎にはもちろんAOJTGを研修して平成32年度本格実施に向けて研修を進めた。次年度さらに実践的に進捗する。	平成32年度の道徳教科化本格実施まで準備を進めていることについて評価できる。次年度も継続してもらいたい。安中の生徒の行動に感心できるような一部生徒の課題について地域でも話が広がっている。関連した情報についてあらゆる場面で反映してほしい。2年生で行う琵琶湖を自転車でも一周する「ワールドびわ湖」が交通安全国民運動中央大会賞賞状を受けたことは大変意義深い。今後安曇川中学校生徒、教師、保護者、地域が連携して継続して進めていけたらいい。熱中症をはじめ、これだけ危機管理が問われる時代なので内容について見直しは当然だと考える。
○健やかな体を育む ・体力向上と健康の保持増進の基礎となる力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動を通じて、体力の向上と健康の保持増進の基礎となる力を育成します。 	教育目標「確かな知性、かがやく良知、たくましい心身」の具現化に向けて生徒、教職員が最善を尽くした。保健体育、食育、健康推進、アサーション、がん教育、性教育などゲストスピーカーに講演をいただき大きな成果を上げた。また部活動でも日々の活動が充実した。大会では県や全国に名前があがった。	A	生徒や教員の成果ばかりで、本校の部活動指導について成果がよく出た。働き方改革において休日指導などが次年度の課題である。保護者も継続する。	保健体育や部活動指導とともに、性教育やがん教育、食育、薬物防止教室など健康面に関する指導も充実している。働き方改革や熱中症予防など部活動指導については制限が増えてきていることは当然である。しかし生徒が打ち込んでいるものとして部活動指導は継続してほしい。
○居心地のよい学校をつくる ・すべての子どもが多様性が認められる豊かな人権意識を養う。 ・豊かな情操と道徳心を培い、いじめを許さない学校風土を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主人公の学級・学校づくりを推進します。(過ごしやすい学校:生徒90%保護者80%) (学級はまとまりがある:生徒80%) ・思いやりのある良好な人間関係を育みます。(いじめを許さない:生徒90%) 	学級のまとまりがあるという回答、生徒82% 保護者58%である。過ごしやすい学校という回答が、生徒82%保護者73%である。生徒、保護者、地域の方から意見を聞き、対話を重要視して改善に取り組んだ。部活動全てを見直し課題改善に取り組んでいく。	B	により継続すべき人間関係の点についてさらに議論が必要である。生徒の自治的・自発的な集団を目指して教育活動の工夫を行う。校友会を充実させる。	「居心地のよい学校づくり」という言葉はハードルが高すぎる。「学校や学級の生活は楽しいなど答えやすい内容にすると評価はあがったのではない。100%を求めることだけが大事だとは考えない。当然のまわりは、数字としての評価は大事であるが、クラスも社会もみんながいて自然と多様な多様性を大事にする世の中の中で集団のまとまらなければならない。生徒同士の間でも人間性にもめることも大事ではない。ただし、いじめの問題については初期対応、組織的対応についてはしっかりと継続してほしい。また、82%の結果と対して18%の生徒の存在については学校ではどのようにとらえているか。大事である。アンケートを高くても個別対応の必要を生徒など、これからの多様な支援体制を続けていけるように問題対応についても進んでほしい。
○コミュニティスクールを基盤に地域とともにある学校づくりを推進する。 ・学校・家庭・地域がつながり、積極的に連携・協働する体制づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の組織的なボランティア活動による学校支援体制を推進します。 	学校運営協議会、地域学校協働本部の立ち上げにより地域立中学校の姿が少しずつ進んできた。安中カフェ、地域探訪、ワールドびわ湖、職場体験、防災訓練、民生委員面談、郷土料理講習会、見守り、他ご協力をお願いした。今後児童生徒たちの育ちを学校地域あげて推進していきたい。協議会様、コーディネーター様をはじめ地域のの方々を支え理解無くしては子どもの成長(将来の高島を担う人材)は困難である。	A	安中カフェを拠点にして、地域学校協働本部が完全に連携させたい。生徒が地域へ外出、町づくりやボランティア活動などを推進させたい。	地域学校協働本部が生徒たちの育成に役立てようとするには、今後、運営協議会としても力を借りたい。また、安中カフェコミュニティスクールとして生徒と地域と学校と連携して育てていくにおいては進捗もあっている。9月にコミュニティスクール地域コーディネーターも決まり半年間には進捗も進んだ年度となった。次年度はさらに工夫をして具体的に進めていかなければならない。

学校 関係 者 評 価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	全株について、たいに成果の出ているものと進歩したものがあることをご指摘いただいた。次年度に向けて課題を明確にして徹底充実させていく必要がある。いじめやいじめ防止対策については進捗が8であった。しかし、学校運営協議会が「これからは安曇川中学校の発展とコミュニティスクール充実のために力を惜しまない。お互い頑張らばり。」と言っていたことがこれからの大きな進捗力となる。小中一貫教育の合同学習については小学校と中学校のギャップがなくなり取組んでいることが大変よい。学力向上と進路選択、家庭学習の定着については親も大きな悩みであり、今後も学校支援を共有しあってもいいと思われる。学び合い学習については成果もあがり今後に期待する。「ワールドびわ湖」が15回継続しており、今年も保護者、地域のみなさんご協力のこと、また全国表彰も受けたいこともぜひほしいとの声が出た。反面危機管理を中心にかかりの負担があることについては進んでいくことも当然であることへの承認もいただいた。生徒指導上の課題についてはいじめや防止といった対策では、安曇川中学校の運動部を説明し、困難な中で時間をかけて改善指導を実現していることに理解を促した。部活動についても進歩が顕著であったこと、秋葉原が県大会で準優勝したことも、さらに、進路選択については全学年に出場して賞状をいただき、自らの一生懸命の取組が報われたことと評価を受けた。今年度、各生3年間の学習指導進歩について、市内2高校の今後についても不安があるとの意見もあった。コミュニティスクールについても成果があったがまだまだこれからであり、進歩のために協力体制をつくり続けることを確認した。	B	小中一貫教育については、合同学習の効果が現れ中ギャップの解消について成果が出ており次年度も継続していく。しかし、学力向上など9年間の見直しをもつて小中の教員員の部会が継続するためにはまだまだ課題が多い。校内研修に全学年で取り組んだり学び合い学習については成果も出ており、授業への主体性や集団の主体的な風土は育ちつつある。次年度さらに職員と保護者の連携を深め授業内容や生徒の関心度のアップに努めなければならない。1学年の地域探訪、2学年のワールドびわ湖、3学年の職場体験学習は安曇川中学校の教育活動の柱であり、保護者と地域と共に一体となって数を上げ、この地域でたくましく生きる生徒を育成する土壌となっている。特にワールドびわ湖では全国表彰を受け注目度も高い。しかし、熱中症をはじめとして、危機管理が欠けかねる中で現在と同じように継続することは限界がある。学校運営協議会やPTAと協議し次年度1年をかけた内容を整理していく。10月からコーディネータが配置された地域学校協働本部の内容も充実していった。しかし、つながりや育ち合う教育を止めず、将来の高島市を担う存在として子どもたちを地域を上げて育てる地域学校協働本部についてはまだまだ進歩している。また部活動についても働き方改革で指導者を外部から招聘するなど環境を整えていきたい。教職員の力の健康を維持し授業準備を充実していった。各研修を充実させこれからの教員を力をつけていく。

<p>学校教育目標 確かな学力と豊かな心を身につけ、たくましく未来を拓く子どもの育成</p>	<p>評 価 年 度 概 要 ・児童アンケートでは学校が楽しい85% 授業がわかる90%でほぼ目標達成。 ・読書に一生懸命取り組んだと答えた児童は62%、保護者41%で回答に差。 ・いじめのない学校づくりに保護者は64%の回答。 ・子どものことで相談できると回答した保護者は70% ・小中一貫教育は学園の教育目標に結び付いているは60% ・学校、学年、学級だよりで学校の様子がわかる 82%(学校だより)90%(学年・学級だより)</p>	<p>中 期 的 目 標 ・基礎的・基本的事項の習得を徹底し、学びを身につける授業の創造に努める。 ・児童の個性を生かし、可能性を最大限に伸ばす指導を進める。 ・児童理解を深め、人間的ふれあいを基盤にした指導の充実を図る。 ・児童の自主的体験的な活動を重視する。 ・家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。</p>
--	---	---

評価項目(指導力点)	指標・到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評定	改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・「わかる」授業の展開と個性に応じた多様な学習指導の工夫 ・タブレット等最新機器の活用による授業の活性化 ・家庭学習の手引きを活用した家庭学習の充実	「学校が楽しい、授業がわかる」と80%以上の児童が感じる。	・児童では、学校が楽しい80%、授業がわかる89%で、目標に達している。保護者では、学校が楽しい79%、授業が楽しい64%となり、楽しくわかる授業の展開を更にめざす必要がある。教員も個別指導の重要性を感じている。	B	B	「学校が楽しい」が昨年度に比べて子どもたちは5%減になっているのは学校行事の精選されたこともあるが、楽しい授業になるように改善してもらえないか。 ・保護者はどうしても高みを目指すので保護者のアンケート結果がよくないのは仕方ないところはあつた。保護者の意見も大切にしながら、学校として子どもにどんな力を付けたいのか明確にして取組を進めてほしい。
	ICT機器を積極的に活用して授業改善につなげる。	・タブレットやパソコンを使って学習をしたいと感じている児童は92%(5・6年生)。ICT機器を活用して児童の学習意欲を高める授業づくりに努めたとしている教員は77%。タブレットの活用によって、学習の意欲は確実に高まっている。	B		
	学年に応じた家庭学習の時間(自分の目標時間)を達成した児童が80%以上。	・「家庭学習の手引き」を活用して家庭学習を進めるように指導。児童の76%が目標を達成。保護者は88%。 「ゆめノートチャレンジウィーク」に対する工夫が見られた。点検カードの活用等保護者の協力を得て、啓発に努めた。	B		
○豊かな心の育成 ・豊かな感性を磨き、感動する心と表現力の育成	年間1・2年は50冊、3・4年30冊、5・6年は20冊以上	・読書に取り組んでいる児童は67%。子どもが読書していると答えた保護者は41%。児童と保護者との間に差はあるが、学校では、本に親しむ児童の姿をよく目にする。	B	B	子どもたちは学校で本に親しんでいる様子をよく目にする。保護者に学校での様子をもっと知ってもらいたい。 ・家庭で今日はテレビやゲームができない日と決めてしまおうと、読書をするようになった。
	年間1回以上、全校又は学年の友達の前で学習したことや考えを発表する。	・本年度の学園研究は「主体的、対話的に学びを深める子の育成」を主題に、自分から思いや考えを伝え、仲間の思いや考えから学ぼうとする子の姿を求めて授業づくりをめざしてきた。全校の前で堂々と発表できる児童が増えている。	B		
	「道徳教育の充実(教科化による質的転換「考え、議論する道徳」へ	・道徳が楽しいと感じている児童は75%。「考え、議論する」道徳の授業実践に努めたとする教員は51%と課題ははっきりしている。学習参観で全学級が年1回は公開することができた。挿絵等教材教具の開発に力を注ぎ、意見の交流が深まる授業をめざしている。	B		
○豊かな人間関係づくりと社会性の育成 ・人間関係づくりと集団づくりの工夫 ・高学年がよりリーダーシップを発揮できる指導	いじめアンケート等によりいじめの未然防止に努め、点検内容を確認・指導する。	・いじめがないと答えた児童は89%、学校はいじめのない学校づくりに取り組んでいると答えた保護者は67%である。 生徒指導・教育相談について組織的で迅速な対応に心がけている。	B	B	・あいさつはこちらが言うよと返してくれる子は多い。しかし子ども自身からのあいさつはなかなかない。低学年は比較的よくしているが、高学年はもう少しのびやかな、あまりない。しかし、以前よりは確実によくなっている。 ・あいさつは、親の姿勢によるところが大きい。家庭教育への啓発を今後も継続してほしい。 ・縦割り活動はとても大事なことであり、縦割り掃除をもっと増やしてもよいのではないかと。
	「ゆめタイム」で、多様な人々と協力・交流し、自分の思いを表現する。	・第2ステージ「MyCity高島」や5年「米作り」4年「二分の一人式」3年「変身する大豆」等の学習では、いきいきと活動する姿が見られる。第1ステージの縦割り活動が活性化できた。各学年、福祉学習にも積極的に取り組んでいる。	B		
	あいさつが自分からすすんでできる児童80%以上。(特に朝のあいさつ)	・達成状況が児童は83%、保護者は68%で差が見られ、実態はよくない。あいさつや掃除、時間を守る等基本的な行動様式の形成が図れていると回答した教職員は59%と昨年より向上している。児童会も積極的にあいさつ運動に動んでいる。	C		
○小中一貫教育の推進 ・小中一貫の教育課程の実践 ・児童生徒の学力の向上	9年間を見直し、つながりを大切にしたい教育活動の展開	・小中一貫教育は教育目標の達成に結び付いている」と回答した保護者は60%、わからないが22%あり、子どもの生きる力の向上を見据えて取組を進めること、更に小中一貫教育のよさをアピールしていく必要性を感じている。	B	B	小中の教員が9年間を見直した指導の充実を図ることを常に意識して教育活動を展開する。 ・「学力向上」「意欲を引き出す授業づくり」に向けて、学園全体で研究を深める。
	9年間の学習指導プランを検証、検討できる授業実践をし、授業研究会を持つ。	・学園研究を通じて9年間を見直した指導を意識したと回答した教職員は71%。高学年の教科担任制についても有効であると捉えている。本年度も県指定を受けて5・6年生の教科担任制(算数科)に取り組んだ。	A		
	ステージを越えた児童生徒の交流、教職員の交流を推進し、充実する。	・効果的に行なわれていると回答した教職員は58%、児童78%、保護者76%となっているが、様々な取組の中で、学習面・生活面等児童へのよい影響がある。教職員の評価は、効果的な交流に改善したい意向があり、高くない。	B		
○体力・健康づくりの推進 ・日常生活における体力づくりの習慣化	子どもも体力向上をめざし、体力テスト、マラソン大会等での記録を伸ばす。	・体力向上をめざして、目通りの体育科の学習とともに、体育部や委員会活動で推進。進んで体力をつけよう心がけていると回答した児童79%。学校は子どもの体力を高めようとしていると回答した保護者は69%である。子どもの健康や体力、安全に対する意識向上に努めた回答した教員は77%と限られた時間の中で工夫をしている。	B	B	・保護者が気軽に子どもと話す機会が少ない。学習参観のあと等学級担任と話せる場があるとうい。 ・この高島には歴史上の人物等学べる教材が数多くある(近藤重蔵や近江高島商人 小野組等)身近な学習を取り入れることで学習意欲も高まる。 ・地域学校協働活動の取組とその効果が評価されつつある。
	学校、学園情報を発信し、地域の交流機会を増やす。 ・地域人材の活用で、教育力の向上を図る。	・「学校だより」「学年・学級だより」で様子がよくわかると回答した保護者は、それぞれ84%、88%なので更に情報の発信に努めたい。 65%の保護者が、子どものことで気軽に相談できると回答、一人ひとりに丁寧に聞かれ、保護者の信頼を得たい。 地域連携については、79%と地域学校協働活動が評価されていると感じる。	B		

<p>学校関係者評価</p>	<p>総 評 ・高島学園は小中一貫教育が特徴的であるので、小中一貫教育をもっと充実させてほしい。小中縦割り活動はとても大切である。「MyCity高島」や体育祭、文化祭の交流で子ども自身が新たなことを知る喜びを意欲付けできるようにしてほしい。小中一貫教育で上の学年と下の学年が交わることで勉強よりも大事なことが学べる。 ・なぜ、小中一貫教育をするとういのか、また縦割りで学んだり、異学年が交流するとういのか見えにくいところもある。そのよさをもっとアピールしてもらいたい。 ・読書に親しむにはノーマディアデーを実施すると効果があるのではないかと。</p>	<p>評 定 B</p>	<p>学校関係者評価を踏まえての改善点 ・小中一貫教育におけるステージごとの活動については第2ステージの「MyCity高島」、第1ステージの「ちびっこフェスティバル」等縦割りや学よさを大事にしつつ、それぞれの学年の目標を明確にして取組を進めたい。そのことでステージ活動とコラボして各教科の学習を充実させていきたい。その展望が本年度見えてきた。今後キャリア教育の視点で教育活動を再構成したい。地域のよさを子どもたちが実感することで主体的な学習がより一層図れる。(例5年「MyCity高島」で子どもを生かして社会科の水産業、工業で地域学習を取り入れ、ゲストティーチャーによる授業を充実させることができた。) ・次年度は道徳科を研究の窓口にして学園研究を進め、子どもが思いを積み重ね、達成感をもって学ぶことを目標に他教科にも応用したい。 ・読書による豊かな心の育成をめざし、ノーマディアデーの取組を学校運営協議会とPTAが運動して進められるようにしたい。</p>
----------------	---	------------------	--

学校教育目標

確かな学力と豊かな心を身につけ、たくましく未来を拓く子どもの育成

＜平成29年度 学校評価の概要＞

○生徒：学校の充実(B)、挨拶・掃除・時間 (A)、行事・部活動(A)、家庭学習(C)

○教職員：学校生活 (B)、挨拶・言葉使い (B)、行事・部活動(A)、家庭学習(C)

○保護者：挨拶 (A)、時間の有効な使い方(B)、行事・部活動(B)、家庭学習(C)

○評議員

・小学校と中学校がこれだけ交流しているのは高島学園だけである。是非とも継続し、さらに充実させてほしい。

・色々なことに、すぐに結果が出ないかもしれないが、長い目でみてほしい。

中期的目標

○『気持ちの良いあいさつを交わす』『しっかり掃除をする』『時間を守り大切に』を実践できる生徒を育てる

○互いに協力しながら学習活動に取り組める生徒の育成と互いに認め合い、支え合い、高め合える集団を育成する

○よく考えて判断し行動できる生徒、主体的に学ぶたくましくい生徒を育てる

○地域を愛し、誇りをもてる生徒を育てる

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評定	改善方針	学校関係者評価
○学力の向上	学校生活が楽しい・充実していると感じる生徒 A B 評価で80%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には85%、2学期には82%となっており、目標を達していると言える。	A	●道徳の文部科学省指定研究(H31.32)を通じて、学力向上の視点から、以下の点について改善に取り組む。 ①選べる時間を窓口にして、指導方法の工夫改善に向けて共通した取組みを推進する。 ②自己存在感を与えられる授業、共感的人間関係を育成する授業を目指し、教師主体の授業からの転換を図る。 ●日々の授業改善とあわせて、課外の質問・補充教室を継続し、学力の底上げを図る。 ●家庭学習のびききを改訂し、『ゆめノート』を活用した自主学習の進め方について指導する。	●朝の5分間読書は大変良いと思う。勉強は大切だが、感謝できることや、善しあしの判断力をつける指導が必要である。 ●学力調査の結果については、向上が感じられる。大事なことは、結果だけでなく、その原因を明らかにし次に繋げることである。 ●「高島学園中学校だより」第9号掲載の4月実施全国学力学習状況調査の結果によると、本校の結果は全国の数値を僅かに上回っているとのこと。学校教育目標に合致した結果が得られているのではないかと感じる。
	授業が楽しくわかると感じる生徒 A B 評価で80%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には78%、2学期には72%となっており、80%には及ばない。特に、2学期の評価が6ポイント下がっている。	B		
	意欲的に学習に取り組めた生徒 A B 評価で80%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には79%、2学期には74%となっており、80%にはわずかに及ばない。特に、2学期の評価が5ポイント下がっている。	B		
	家庭学習に意欲的に取り組めた生徒(7年70分、8年80分、9年80分) A B 評価で60%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には54%、2学期には55%となっている。	C		
○豊かな心の育成	清掃活動に協力して頑張れる生徒 A B 評価で80%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には91%、2学期には92%となっており、大部分の生徒が当番活動など、自分のなすべきことは責任をもって行うよう意識している。	A	●道徳の文部科学省指定研究(H31.32)を通じて、豊かな心の育成の視点から、以下の点について改善に取り組む。 ①道徳科の指導を核にして、自身の日々の生活を振り返らせたい。特に、道徳の授業だけでなく、学年総括活動や、学校行事や部活動等において、道徳の学習と教育活動を連携させた指導計画を実施することにより、生徒の心を耕す。 ②学園生活の基本である「あいさつ、掃除、時間」の三つを継続して、繰り返し指導してきた。生徒の評価は高いが、全ての生徒が安定してできるまでにはなっていない。今後も粘り強く、継続的な指導をしていく。 ●生徒会活動により充実させ、活動を通して望ましい人間関係を形成するとともに、児童会活動との連携を図る。 ●自然体験活動の実施に際しては、全校生徒による共通感動体験となるプログラムを取り入れる。 ●これまでの生徒会活動を見直し、生徒が、学校生活の厳しさや楽しさを感じられるような活動を取り入れ、自主的、主体的な態度を育成する。 ●部活動において、外部の部活動指導者の支援・協力を得て、生徒の技術指導だけでなく、生徒の心身の健全な育成の機会とする。	●形には表せないが、まずは声をかけて奮闘的な心の育成の視点から、以下の点について改善に取り組む。 ●重かであるのか無いのかは難しい問題である。目標としていることが出来ているかどうかの判断も基準が難しい。生徒をどうまで見られているのかも随分と異なる。そういう中で、現状の方法で感じ取るしかないのでは、概ね今の状況で良いかと感じる。 ●登校時の挨拶や朝読書図書室でのお話会など地域の方々とのふれあいを通じて地域の中で、自分の居場所を確認できる。また、小中一貫の行事参加により下学年生は身近な目標を持つことが出来、上学年生は自身の成長の過程を確認することが出来る。
	家庭、学校、地域でしっかり挨拶ができる生徒 A B 評価で80%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には83%、2学期には90%となっており、大部分の生徒にとって、日常生活で定着している。	B		
	時間を守り、時間を大切にしている生徒 A B 評価で80%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には88%、2学期には93%となっており、大部分の生徒にとって、日常生活で定着できている。	A B		
	親身になって質問や相談に応じてくれると感じている生徒 A B 評価で80%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には82%、2学期には85%となっており、多くの生徒は、教師の対応に一定の評価をしている。	B		
○健やかな身体の育成	特別な教科道徳への移行を見据え、生徒の道徳性の高まる指導の見直しに取り組む。	週1回の道徳の時間が定着してきている。教員の指導力向上のために、道徳の指導に関する研修を踏まえ、指導計画の見直し着手することができた。	B	●生徒会活動により充実させ、活動を通して望ましい人間関係を形成するとともに、児童会活動との連携を図る。 ●自然体験活動の実施に際しては、全校生徒による共通感動体験となるプログラムを取り入れる。 ●これまでの生徒会活動を見直し、生徒が、学校生活の厳しさや楽しさを感じられるような活動を取り入れ、自主的、主体的な態度を育成する。 ●部活動において、外部の部活動指導者の支援・協力を得て、生徒の技術指導だけでなく、生徒の心身の健全な育成の機会とする。	●楽しみながらできる体験活動や学習は、体力向上により、定期的に実施すると良いと思う。 ●生徒の意欲は低下傾向にある。 ●全員が団結する運動会や自然体験活動でも、個別でより助け合う姿が見られる。 ●部活動や駅伝等を見て取り組みが薄く感じられる。生徒にはマイナスに影響している。
	行事や部活動に満足している生徒 A B 評価で80%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には89%、2学期には83%となっている。部活動には一定の満足感を得ている。	A		
	行事や授業の体験学習に満足している生徒 A B 評価で80%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には87%、2学期には79%となっている。2学期には文化祭以降、生徒の記憶に残る止まる体験的な活動が少ないため、評価が9ポイント下がっている。	B		
	学校生活が楽しく充実していると感じる生徒 A B 評価で80%以上	A及びB評価をしている生徒は、1学期には85%、2学期には82%となっており、目標を達していると言える。	A		
○開かれた、信頼される学校づくり	学校、学園情報を定期的に発信し、保護者や地域の人々の来校機会を数多く設定する。	A及びB評価をしている生徒は、1学期には79%、2学期には77%となっており、低い評価となった。一方で、新しく更新されなかった学校HPを、今年かぶりで更新することができ、多様な情報発信可能となった。	B	●地域学校協働活動推進員との連携を深め、学校への支援だけでなく、生徒が地域に出て行き、貢献する活動により充実させる。 ●保護者、地域への広報活動が足りないので、ホームページにより積極的に更新も含めて改善する。	●ケースによって全く異なるが、学校としては可能なことは積極的に取り組んでいる。 ●多くの地域が目が入ることで開かれた環境ができる。その中で、地域の継続が信頼を作れる。 ●頻りに保護者アンケートを実施し、意見を吸い上げる姿勢作りも信頼の基礎となる。
	地域学校協働本部を拠点に、地域人材の積極的な活用とともに、地域貢献活動を拡充する。	地域学校協働活動推進員の仲立ちを得て、地域人材を活用した教育活動を充実させることができた。また、生徒が地域に出て地域貢献に取り組む活動も継続することができた。	A		
	小中合同による授業研究会の定期的な実施により、指導の連携を進める。	共通の研究テーマをもとに、小中合同の学園研究を年間通じて取り組むことができた。今年度の4つの研究部会では、ICT機器の活用や指導方法について、小中教員の活発な議論がなされた。	A		
○小中一貫教育の推進	一貫教育の利点である、教科の連続した指導を通して、学力の向上を図る。	中学校教員による小学校での専科指導を充実させることができた。特に、英語科と体育科の2名の市費小中連携加配教員により、中学校教員が小学校の担任とともに授業を行っていることができ、小中を流らかな継続することができた。	A	●道徳の文部科学省指定研究(H31.32)を通じて、小学校との合同研究の視点から、以下の点について改善に取り組む。 ①小中合同による研究体制を整え、一体となって研究に取り組む。 ②小中連携で取組まれてきた教育活動を、キャリア教育の視点で連続性のある活動に再構築する。	●小中一貫で交流ができて、縦のつながりができてよいと思う。 ●学園生活において、相手の立場をうかがい知ることが、見返す環境に多学年がうまく存在することで、より容易になる。 ●19年経過してきつた大きな変化は感じられないというが地域の全体の評価は変わらない。けつこうな努力と時間を使いながら良い結果につながっていない。
	教師の授業交流だけでなく、児童生徒の日常的な交流活動を拡充する。	年間を通じて、計画的に小中交流活動に取り組むことができ、学年経営の大きな柱となっている。特に7年生にとっては、こうした教育活動の経験は、中学入学期の不安軽減に役立たと75%の生徒が回答している。	B		

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
●「一貫でなかったら」という接証はもう出来ないの、無理の無い形で成果がみえる方向を目指されたいと思う。強く先導しないと始まらないし、動かないと思う。 ●卒業生が将来、多くの人に役に立つ大人になりたい、とか人に幸せを与え社会に貢献できる仕事を見つけたいな、まだ中学生ですが夢ではなく自分のめざす目標をしっかりと持っていることに感心しました。他人を思いやる心、自然や美しいものに感動する心、生命の尊厳を尊重する心、少しずつ身について来ていると思う。 ●学校の取組みはこれまで同様に行われているが、働き方改革などの諸条件により少しずつ取組みにゆとりがなくなっている気がする。部活動や駅伝等を見ても取り組みが薄く感じられる。おしなべて全体の生徒のレベル向上にもマイナスに影響していると考えられる。 ●基本的に生徒の意欲がかなり低下傾向にある。部員が確保できないと始まらないので子ども達のこの意欲を何とか変えて頂く努力をお願いします。6年生段階で運動部活動に対する良いイメージを作れないものかと思う。一貫教育の強み(小中連携)を生かす場面では無いかと思う。また、外部コーチが増えている良いことかと思いますが、いろんな場面で練習時間が削られて行くのが残念です。 ●地域には、いろいろな歴史文化がある。来年は満開つり4百年の節目を迎え、地域では高齢者がばかりで、祭りを継続していくことは難しく、中学生には積極的に地域文化との交流を期待する。	B	●小中一貫教育については、市内の先進校としてのこれまでに9年間の取組みを点検評価し、児童生徒のキャリア発達になるよう、より充実したものにしていきたい。そのために、小中協働で道徳教育の充実を教育活動の核にして、指導力の向上、教育活動の再構築に取り組む。	
		●生徒会活動を充実させ、生徒の自主的な態度の育成に努めたい。 ●これまで取り組んできた生徒の地域での活動を充実させるとともに、地域学校協働本部と連携し、地域の歴史・伝統を学ぶ機会を通じて、地域の将来を担う後継者としての意識を育てたい。 ●部活動については、地域の中から外部指導者の適任者の拡充に努め、活動時間の在り方も含めて活性化の手立てを検討していく。	

学校 教育 目標	(学校教育目標) かがやくひとみ ～夢に向かって自らを高め、 未来を切り拓くたくましさをもつ子の育成～ (めざす子ども像) 自他を認め大切にする子・協力してやりぬく子 自ら考え行動する子・約束を守る子・自分を表現できる子
----------------	--

昨年度 の評価 概要	学力の保障: B(授業よくわかる: 児94%保82%) 家庭学習の習慣化: C(児80%) 仲間はずれやいじめをしない: B(児97%) 自分からのあいさつ: B(児93%) 怒って熱心にそうじをする: B(児84%) 早寝、早起き: C(早寝全校で71%) 給食を残さず食べる: A スマホやゲームの家庭での使用ルール有り: C(5、6年生71%)
------------------	--

中期的 目標	各教科等の基礎基本の確実な定着と、協働的な学びのある授業づくりにもって思考力、表現力の育成を図る。 町内各校園とより深く連携し、系統性を意識した指導体制の一層の充実を図る。 コミュニティースクールの機能により学校に対する地域の理解や関心を一層高める。 自分も他者も大切にできる心情を育み、ともに生きる力を伸ばせるような人権感覚あふれる児童集団をつくる。
-----------	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方針	学校関係者評価
《学ぶ力の育成》 ・基礎基本の確実な習得 ・学び合う学習の充実 ・学習習慣や規律の定着 ・授業改善への更なる挑戦	「授業がわかる」という問いに対し80%以上の児童がA評価する。	「わかる」「どちらかといえばわかる」と答えた児童は全体の児童92%と評価(昨年59%)し全体として微減しているが、「わかる」とA評価した児童は59%(一昨年51%、昨年56%)となり3年間で増加傾向にある。「授業でわからないことを先生に質問しているか」という問いに対して、H28...2.86、H29...3.24、H30...3.27(ともに4を肯定評価の満点とした場合)というように若干ではあるが積極性の高まりも見られる。	B	B ・ペアやグループなどの児童間の対話をいっそう重視する。そのための教職員研修の充実を図る。 ・学力の二極化への対応として個別指導できる体制の充実に努める。 ・家庭学習の質的向上をめざす。読み書き計算のドリル学習に加え、本校の課題である文章記述の作業も宿題に取り入れる。 ・保護者に対し、児童が集中して家庭学習に臨める環境の用意を校報等で繰り返しお願する。 ・保幼小中一貫教育で進める「学習の約束」をどの学級でも意識して指導し、習慣化を図る。 ・「書くこと」は学習の基本である。日常的に書くことを進めてほしい。	・授業公開しづらい要因は何か? 学習体制の確保など工夫しながら、推進していただきたい。 ・ICT機器の活用は視覚に訴えるという点で大切である。しかし、映し出されたものはすぐに消えてしまう。学習の記録を残すという意味でノートを活用を進めるべきである。ノートを丁寧に見取っていき、評価をしかりやるとよい。 ・学力、学習状況調査をしかり分析して課題を明確にすべきである。 ・「書くこと」は学習の基本である。日常的に書くことを進めてほしい。
	「話す人の顔を見て話を聞いている」という問いに対して70%以上の児童がA評価する。	A評価した児童は64%と目標値には届かなかった。ただ、最近の3年間でH28...3.27、H29...3.57、H30...3.58と肯定評価が高まりつつある。	B		
	家庭学習を1～3年は30分程度、4～6年は学年×10分以上行う(90%以上の子どもが目標の時間学習する)。	12月の評価では6年生以外目標の時間以上家庭学習に励む児童は7割程度にとどまった。昨年度同様家庭学習の時間においても内容においても、個人差が大きく二極化の傾向がある。	C		
	各教員が年間1回以上授業公開、月1回以上ICT機器の活用をめざす。	授業公開は8割以上の教員が行った。ICT機器の活用は、すべての教室において書画カメラの設置が実現され、どの学級においても活用の日常化が進んだ。	B		
《豊かな心の育成》 ・自尊心の育み ・人権を尊重する態度の育成 ・あいさつの習慣化 ・「心磨き清掃」の徹底	児童の自己評価「仲間はずれやいじめをしない」90%以上	「仲間はずれやいじめをしない」の問いに対し98%の児童が肯定評価。H28...3.67、H29...3.78、H30...3.83(ともに4を肯定評価の満点とした場合)という3か年の推移である。いじめの認知について職員共々の理解を促し、早期対応に努めた。一方「おさんには人権意識が育ってきていると感じますか?」という保護者への問いに対してはH28...3.37、H29...3.46、H30...3.31と肯定評価が減少している。	B	B ・「いじめ」に対する教職員や児童、保護者の認識を深める。 ・各教科、学級指導等あらゆる機会を捉え、互いの人権の尊重の大切さを指導する。あわせて自己決定、自己存在感、共感的人間関係という3つの原則を日々の授業の中で教師が意識する。 ・いじめ防止対策委員会の定期的開催および児童の情報交流の日々の開催等全教職員での情報共有に努める。 ・「あいさつの習慣化」を合い言葉に、全職員であいさつを奨励し続ける。また児童会活動「心みき清掃」の定着に向けて、教職員からの指導の徹底と、児童会の取組支援を行う。 ・結果よりも経過に注目しながら児童の努力を機会を捉えて賞賛する。自尊心の低い子を全職員で情報共有して、声かけていく。 ・思いやる心の育成に向けて、文学作品などの暗唱などにも取り組んでみてはどうか。また、感動させる機会も今は少ない。意図的に作品に触れさせることも必要だろう。	・子どもが良いことをしていたら、とにかく賞賛の言葉をシャワーのように投げかける。そうすれば、もっと自分のことが好きになれる。 ・地域学校協働活動の中で、色々な大人が子供に関わって、子どもの良さを見つけたときに、その場でほめることが大切である。 ・「いじめ」を数字で判断しないように。ささいなことでも気になることがあったらその場で正しく感覚が必要。 ・マイナス面をクローズアップするのではなく、プラス面をもっと際立たせたほうが良い。 ・思いやる心の育成に向けて、文学作品などの暗唱などにも取り組んでみてはどうか。また、感動させる機会も今は少ない。意図的に作品に触れさせることも必要だろう。
	困り感や悩み把握のために、児童のふりかえりアンケートを毎週金曜日に実施。児童の困り感の把握と、自己肯定感の状況把握に努め、情報は全職員で共有している。	毎週金曜日に実施。児童の困り感の把握と、自己肯定感の状況把握に努め、情報は全職員で共有している。	B		
	児童の自己評価「あいさつを自分からする」90%以上	児童は92%が肯定評価。H28...3.41、H29...3.58、H30...3.59(ともに4を肯定評価の満点とした場合)という3か年の推移である。職員評価でも全員が肯定評価をするなど、改善傾向にある。校内では活発なあいさつが見られるが、地域においては習慣化できていない。	B		
	児童の自己評価「三つ玉(見つけ玉・しんせつ玉・がまん玉)」を大切にしようとする」90%以上	児童89%が肯定。H28...3.20、H29...3.28、H30...3.35(ともに4を肯定評価の満点とした場合)という3か年の推移である。	B		
《たくましい心身の育成》 ・バランスのとれた体力・運動能力の育成 ・めあてをもって努力し続ける力の育成 ・望ましい生活習慣の確立 ・食育の推進	4年生以上で22時までの就寝70%以上	4年生75.6%、5年生59.5%、6年生51.1%と年齢が上がるにつれ就寝が遅くなる。個人差が大きく個別への指導を要する。	C	B ・機会を捉えて養護教諭による保護指導や担任による保護学習を行い、睡眠の必要性を理解させる。 ・保護者と児童の両方が参加できるネット利用に関わる学習会の開催を工夫する。 ・引き続き日々の指導とともに「ふりかえりファイル」等の活用を進める。 ・見る側の関心を高めるためのコンテンツの工夫を重ねながら、引き続き更新に努める。	・白ポストが廃止になった。つまり、今はネットで何でも手に入れられる時代。家庭の環境づくりが大切になってくる。 ・早寝をしたかどうかの把握が難しい。どうしても子ども任せになることがある。
	ネットやゲームの使用について家庭でのルール有りを90%以上	児童に対して「ゲームやインターネットを使うときの約束を決めているか?」という問いに対して全校では60%は決めていて、20%は概ね決めていてとの回答。5、6年生は決めていてとの回答が9割に満たない。保護者に対する評価では、家庭でのルールを決めている、概ね決めていてとの回答は66%である。	C		
	給食を残さず食べる...90%以上	「給食を残さず食べましたか?」の問いに対する肯定評価は87%だった。一方、栄養教諭や給食担当職員の指導の積み重ねも改善に寄与して、残食率は減少している。	B		
	ホームページによる給食献立の紹介を毎週更新	ほぼ毎日の給食の画像とメニュー、それにかかわるコメントを栄養教諭によって作成し、本校ホームページにアップしながら、給食への理解を求めた。	A		

学校関係者 評価	全体として先生方はよくやっていると思う。BやCの評価が多いが、Aを付けてもよいと思う。現代の子どもたちには「情報」を取捨選択できる力が求められる。情報提供を制限するのではなく、持たせようとして我慢させる体験や不便さを実感できる体験を積み重ね、自己管理できる能力を身につけさせたい。 ・授業を魅力あるものにして、子どもをひきつけたい。学習規律は1、2年生の指導が大切になってくる。 ・子どもたちは、上級生を見て育つ。下校時の様子を見て自然発生的に上の学年の子どもたちからリーダーが出てきて、上手に下級生をリードしている。それが南小の良さ伝統である。そうした子どもたちの良さを機会を捉えて周囲に伝えたほうが良い。 ・高学年の発声がしっかりしている。色々な場でしゃべる経験があるように感じる。	B	・授業を公開することにもっと積極的な手立てを講じたい。互いに切磋琢磨できる職員室の雰囲気をつくりたい。 ・教職員が子どもたちを認め、褒める場をより多く持ちたい。そのためには、日常の見取りが大切である。いじめの早期発見のためにも、日常的な見取りや記録を欠かさない。また、学校だけでなく地域でもあいさつなどの子どもたちへの声掛けが頻繁に行われるよう啓発したい。 ・ICT機器の活用もさることながら、一方でノートに書く、記録する活動を重視したい。 ・子どもたちが適切に情報選択するためにも、保護者に対して啓発が必要である。ネット利用に係る保護者対象の学習の場も必要である。 ・児童の登下校をはじめとして、上級生としてあるべき姿を機会を捉えて指導して、良き伝統となるよう努めたい。(道路横断の仕方、並ばせ方、たてわり活動、委員会など)
	学校関係者評価を踏まえての改善点		

学校 教育 目標	「自ら学ぶ子どもの育成」 夢や目標に向かい、仲間と学び合い、支え合いながら努力する子ども	昨年度の評価概要 <H29学校評価(自己評価)> ・(児)家庭学習がしっかりできている(B以上の評価 91%)保護者満足度(79%) ・(教)学力の二極化が顕著 やりきること自己肯定感を高める必要がある。 ・(評)地域は協力的なのでいろいろな団体とつながり成果を上げて欲しい。 ・(保)家庭学習の習慣化、基本的な生活習慣の確立が課題。	中期的目標 <中期的(3年間)目標> ・豊かな人間性、社会性の育成と学力向上(生活習慣・学習習慣の確立) ・教員の授業力の向上(授業改善と個に応じた指導) ・地域とともにある学校づくりをめざす(学校運営協議会 地域学校協働本部)
----------------	---	--	--

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
◎学ぶ力を育む授業づくり ☆学力向上アクションプランの実践化 ・各教科の基礎・基本の徹底/授業改善 ・言語活動を窓口とした授業改善 ・教師の指導力の向上 ・外国語活動の推進 ・特別の教科道徳の推進	学年に応じた学習規律の確立を図る。	学年の発達段階に応じて学習規律の徹底を図っている。教師の1学期は規律の徹底が図れているが57%から2学期は88%となった。	B	学校全体での取組意識を持つ。重点目標を決めるなど、具体的内容を明確にする。 内容と質をさらに向上させるため指導を継続する。目標達成できない子への手立てを考える。 特にまとめの時間でその時間の振り返りができる時間確保を図る。 担任が授業を進める意識を徹底する。質向上はまず授業づくりからの認識を共有する。	学習規律を大切にしているのはよいことだ。主体的な学びのための成果がみられることは先生方の意欲につながる。研究授業は必須である。 ・まとめの時間での振り返りは継続を望む。また先生方の茶べんのコメントは学習意欲に直結している。 ・学力・学習状況調査の結果を分析して各学年の到達を明らかにし、確実に次の学年へ引き継いでほしい。
	自主学習の充実と継続を図る。	家庭学習ががんばり週間を月に1回実施。個人や学級のデータを蓄積して生かしている。学習する中身を吟味する必要あり。	B		
	授業において、めあての提示と振り返りタイムの確実な実施を図る。	授業改善(児童の主体的な学び等)を意識して授業に取り組めた。職員評価88%と意識の高まりがみられる。	B		
	研究授業の充実と努め児童の学力向上と指導者側の質向上に資する研究を行う。	「特別の教科道徳」を窓口到校内研究に取り組み、道徳の時間は計画に従い効果的に進めようとする意識が高まった。	A		
◎柔軟でやさしい心づくり ☆マイスクール事業の推進 ・地域の人・もの・事に学ぶ 心をつなぐあいさつ運動の推進 ・縦割り活動の充実 ・朝読書、家読など読書活動の充実 ・ストップいじめ行動計画の推進 ・人も自分も大切にすることの機運の醸成等	言語環境を整え、時と場に応じた言葉遣いができる。	時と場に応じた言葉遣いができている。子どもの評価80%、教師の評価47%。意識に差があり、日ごろの指導を継続する必要あり。	C	家庭との連携をさらに図り、共に指導を進める。児童会の取組は有効。 あいさつ運動は積極的に児童から声をかけることが地域の方の輪を広げるものと思われる。 図書室を整備は読書意欲に結びつきを感じる。 ・自尊感情の向上に努め、自信の持てる子どもの育成を進めたい。	
	自分から進んであいさつと素直な返事ができる。	自分からあいさつができた。子ども84%、保護者73%、教師61%となり意識に差が出ている。あいさつ運動期間中はよくできていた。	B		
	読書に目標を持ち、進んで読書ができる。	本のバーコード化や本の整理で図書室の環境は整った。「本をたくさん読んだか」子どもの意識68%で環境を活かしていく取組が必要。	B		
	仲間はずれやいじめをしない、負けない、許さない。	人権集会や道徳の研究授業を行い、機会を捉えて指導をした。いじめ、仲間外れにしない子どもの意識94%、仲の良い子がいる保護者96%。	A		
◎強くしなやかな体づくり ☆体力向上プランの実践化 ・遊びを通した仲間づくり ・体力・運動能力向上の全校的な取組 ・食育を通した健康な体づくり ・生活習慣の確立	体育の始まり5分間運動と外遊びの充実を図る。	外遊びやみんな遊びの機会を増やした。冬場は縄跳びの練習に熱心に取り組む児童が多い。毎日30分以上の外遊び子どもの達成率80%	B	マラソン月間、なわとびタイムなど目標を明確にして、取組内容を考える。 10時までの就寝率が悪いことも含め、学校だけでなく保護者とも連携を取り改善に努める必要がある。 家庭への呼びかけをさらに進める必要がある。夜型のライフスタイルが進み、難しい面がある。 保護者懇談会などを利用して治療勧告を個別に手渡し、再勧告も実施していく。	
	スマホ・ゲーム・テレビは家で決められた時間内を守る。「ノースクリーンデー」の推進。	「ゲーム等決められた時間を守れているか」保護者の評価は60%、子どもの評価は68%で課題がある。毎年改善が進まない。	C		
	「早寝早起き朝ご飯」の推進。	「早寝早起き朝ご飯の生活リズムがついているか」保護者の評価83%子どもの評価84%。課題は夜10時までに寝た子どもの達成率64%と低いこと	B		
	むし歯の治療率の向上	治療勧告は33.6%で今後はフッ素塗口の効果を見ていく必要がある。受診率が64.5%で昨年度より改善された。	B		
◎保幼小中・家庭地域との連携 ・学び合いに視点を当てた授業交流の推進 ・生活習慣・学習習慣の確立 ・子どもの交流活動の充実 ・自立と共生による環境づくり ・地域とともにある学校づくり(学校運営協議会 地域学校協働活動の推進)	家庭学習を学年×10分以上行う。(1・2年生は30分間)	「家庭学習の定着を目指し内容や与え方の工夫ができたか」子どもの達成率87% 保護者の意識74%で個別指導が大切。	B	家庭学習が不足している児童への個別指導と内容の質を高める工夫が必要。 登録させていただいた人材の有効な活用を進め、幅広い分野での協力を求める。 事前研究会をして意識を高める。授業研の日時や参加方法を再検討する。 タイムリーな内容を考える。学校の方針や学校運営協議会の内容も伝える。	
	保護者や地域人材の活用	地域学校協働本部と「北小希望の会(保護者ボランティアの会)」が立ち上がり会員も30名となり、地域の方の今まで以上の協力を得ている。	A		
	保幼小中一貫教育の推進。	5・5交流や授業研を実施して成果も上がっているが、理念に立ち返る意識大切。教師の評価76%	B		
	タイムリーで分かりやすい学校情報の発信。	学校だより、学年だより、学級だよりをタイムリーに発行できた。メール配信も有効にできている。保護者の評価96%	A		

学校 関係者 評価	総 評 ・希望の会が中心となり、学校のさまざまな取組に保護者や地域の方の参加が活発になり、連携が図られている。ただし子どもたちへの教育の中心は学校の先生方の役割。特に担任の先生方の明確な方針・指示が大切である。 ・授業参観、子どもが参加しての劇、子どもを前面に出しての運動会等、子どもが主役で生き生きと取り組む活動がなされていた。 ・「福祉教育」では高齢者・障がい者両面からの取組、いじめ対策など人権教育を常日頃から地道に取り組んでいきたい。 ・「アクティブラーニング」の理念のもと自主性、協力的な学びを進めるとともにITやプログラミング教育などの学年も段階に合わせて進んでいきたい。 ・働くことの意義を大切に考え、キャリア教育の充実をお願いしたい。 ・今回図書ボランティアの皆さんが環境整備されたことから、児童が本に興味を持ち、読書習慣が根づくことに期待したい。	評価 B	学校関係者評価を踏まえての改善点 ・確かな学力を身に付けるため、学習規律の徹底と振り返りの時間の確保を図る。また、授業中での話し合い活動を進め、主体的で深い学びができる授業づくりをめざす。 ・家庭の教育力を向上させるため、家庭学習の与え方の工夫、情報発信を行う。 ・教育課程をキャリア教育の視点から見直し、主体的な学びに向けた授業改善を図る。 ・本校の伝統である縦割活動に新たな視点を加えながら継続する。 ・自分事として考える「特別の教科 道徳」や学級活動を通して支持的な集団づくりに努める。 ・これまでの新旭地区の取組の継続を図る。特に授業研究や校園の交流に力を置く。 ・学校運営協議会や北小希望の会(学校支援ボランティアの会)とのかわりを密にして、地域とともにある学校づくりをめざす。 ・引き続き保護者、地域に向けての情報を発信し情報公開に努める。
-----------------	--	---------	--

<p>学校教育目標</p> <p><学校教育目標> 「心豊かで、たくましく生きる生徒の育成」 <めざす子ども像> 「他を大切にしながら、自ら考え、仲間とともに主体的に学ぶ生徒」 <めざす学校像> 「活力と思いやりがあふれる学校」</p>	<p>昨年度の 評価 概要</p> <p>◇地域に根ざした特色のある教育活動の継続と、さらなる工夫、充実に向け、来春を担う子ども育成に努めてほしい。 ◇子どもの落ち着いた様子から、さらに可能性を引き出し、よさを伸ばす教育活動を展開してほしい。 ◇新地地域のよさを学んだり、体験活動を通して実感したりする教育活動を積極的に実施し、将来地元で活躍できる人材の育成に努めてほしい。 ◇保護者や地域の方々に情報を積極的に発信し、地域・家庭・学校の三者が一体となって、将来の新地町の未来を担う子どもたちの健全な育成に努めてほしい。</p>	<p>中期的 目標</p> <p>□授業を基盤とした学習習慣の定着 □自ら進路を切り拓く学力の育成 □社会的規範が身に付いた生徒の育成 □学校や地域に誇りがもてる教育活動の展開 □認め合い、支え合い、磨き合う集団の育成 □学んだことを地域社会の中で生かす社会性の伸長(学而事人)</p>
--	--	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評定	改善方針	学校関係者評価
<p>○確かな学力を育む教育活動</p> <p>・学力向上の取組の推進</p> <p>・教え合い高め合う授業づくり</p> <p>・家庭学習の習慣化</p> <p>・保幼小中一貫教育の推進</p>	<p>・授業時間数の確保に努めます。</p> <p>・少人数指導等による個に応じたきめ細かな指導の充実を図ります。</p> <p>・「めあて」を明示し、「振り返り」を行う授業づくりに努めます。</p> <p>・課題の発見や解決に向けた主体的、協働的な学びを推進します。</p> <p>・ペアやグループでの学び合う活動の充実を図ります。</p> <p>・保幼小中の連携を図り、学習規律の定着や家庭学習の習慣化を図ります。</p>	<p>学校行事の精選や時間割編成の工夫は、年間を通して次年度以降を見通しながら継続的に行っている。その中で、夏季休業中の登校日を設定し、必要な授業数を確保している。</p> <p>年間通じて、英語科において、第2学年と第3学年で少人数指導を行った。2年生の1学期と3年生の2学期には、約90%の生徒が「わかった」と回答している。3年生は「わかった」が増えている。</p> <p>全教科において、「めあて」と「振り返り」を大切に授業を展開した。全ての学年で、1・2学期とも約80%の生徒が「めあて」の提示で学習意欲がもてたと回答している。</p> <p>課題解決に向けて主体的に取り組めたと回答した生徒は2学期には全学年で90%を超えている。特に、1年生では97%と非常に高い。2年生は1学期より、2学期が大幅に改善している。</p> <p>ペアやグループで学び合う活動を積極的に取り入れている。1・3年生は90%をはるかに上回っている。2年生においても、93%と高い。全学年前学期において90%を超えている。</p> <p>保幼小中の連携した学習規範を定め、90%をはるかに超えた高い数値となっている。昨年の、「徹底するには至っていない」から、大幅改善を実現した。家庭学習の習慣化について課題は残る。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>・全国学力・学習状況調査結果は、ほぼ全国平均である。県平均は全て上回っている。コミュニティスクール・地域学校協働活動が始まり、学習活動にも地域の方に、相当定着、関わっていただいた。基礎学力の定着に様々な学習補充の活動を取り入れた。回数増や時間の確保が課題である。習熟度についての課題は残るので、小中一貫教育の取組での工夫により改善していきたい。また、授業改善においては、学び合い活動を取り入れた授業づくりを継続し、より発展させたい。</p> <p>・学習規律は、時間の経過とともに定着していった。今後は、個別の指導により前進させていきたい。また、学級集団づくりに継続して取り組む。</p> <p>・家庭学習は、大きな課題である。</p>	<p>・学而事人室により、ミニ学習会が多く開催されたり、3年生には、高校教員経験者による入学試験の模擬面接を行った。あらゆる方法により、生徒の学習意欲が向上した。学校の落ち着きを感じる。真剣に授業に臨む生徒が増えている。保幼小中一貫教育や校内の授業改善、学而事人室の働きかけ等、生徒に確かな学力を身に付けるための取組を、数多く行ったのはたいへんよかった。家庭学習については、アンケート結果から時間の短い生徒の割合が多いことが読み取れるが、塾での学習を家庭学習にカウントしていないようだ。実際、塾に通っている生徒は、家庭学習の時間はとれないのではないかと。アンケートの取り方を考える必要性を感じる。塾を積極的に認めることにならないように、学校における授業改善の様子を、よくわかる。学び合う活動についての生徒のアンケート結果は高い数値である。</p>
<p>○豊かな心を育む教育活動</p> <p>・生徒理解の充実</p> <p>・個を大切に生徒指導の推進</p> <p>・いじめのない学校づくり</p>	<p>・さわやかなあいさつが飛び交う学校づくりを目指します。</p> <p>・あらゆる機会を通して、生徒とのふれあいを大切にします。</p> <p>・学級や部活動において、いじめのない集団づくりに努めます。</p> <p>・いじめをなくすための生徒会活動の活性化を図ります。</p>	<p>2年生1学期の92%が最も高く、その他は、96～97%と非常に高い数値となっている。3年の多くの生徒が「あいさつが気持ちよくできる学校」と、昨年になかったアピールするまでになっている。</p> <p>昨年は、約80%であったが、70～80%の生徒が気軽に教師に相談したり、話したりすることができたと回答している。決して高い数値とは言えない。今後の課題である。</p> <p>いじめのない学校づくりを徹底して取り組んでいる。2・3年生では毎学期、90%を上回る生徒がいじめをしない、させないようにしていると回答している。1年生の1学期のみ90%を下回っている。100%を生徒会役員が中心となり、意欲的にいじめ撲滅運動に取り組んでいる。90%を超える生徒が、生徒会のいじめ撲滅運動はよかったと回答している。3年生1学期は、100%となっている。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・あいさつは今年度大きく変化が見られた。継続とより充実させる取組を工夫していかねばならない。生徒会によるあいさつ運動を継続する。</p> <p>・いじめのない学校づくりに向け、全職員が高い危機意識を持ち、早期発見・早期対応に努める。継続して生徒自らが取り組む「いじめ撲滅運動」の、さらなる活性化を図る。</p> <p>・教職員と生徒の、より高い信頼関係を構築する。全教職員が、常時、生徒の情報のやりとりができる体制をつくる。</p>	<p>・地域学校協働活動の具体的な取組の一つとして、毎朝の学校への出迎えがあり、気持ちの良い挨拶が飛び交うようになった。生徒会のいじめ防止の日常的な活動が充実しているのは、たいへん良いことである。滋賀県人権ふれあいのついでに、いじめ防止の生徒会の取組を発表したことや、生徒が進んでいじめをなくそうとする活動を行っているのは、他にあまりないことである。気軽に相談する体制は、今一つである。力を入れる必要がある。「学而事人室相談」の活用が少なかった。相談に来るよう、知らせていくことがいる。</p>
<p>○健やかな身体を育む教育活動</p>	<p>・部活動の活性化を図ります。</p>	<p>全校生徒が部活動または外部活動に参加している。1・3年生では90%を超える生徒が部活動や外部活動に意欲的に取り組んでいると回答している。2年生が90%を下回っている。</p>	<p>B</p>	<p>・子どもたちの健やかな心身の育成に、部活動・外部活動の一層の充実を努める。</p>	<p>・2年生の充実度に落ち込みを感じる。現学年の課題であるのか、2年生という学年そのものに、そのような傾向があるのか分析がいる。</p>
<p>○自然や地域と共生する力を育む教育活動</p> <p>・郷土の自然・歴史・先人の学習</p> <p>・地域資源の有効活用</p> <p>・地域に信頼される学校づくり</p>	<p>・地域の方々の協力を得て、郷土のよさに触れる体験活動を実施します。</p> <p>・地域の指導者とともに教育活動を積極的に取り入れます。</p> <p>・学校での生徒の様子を保護者や地域に発信します。</p>	<p>96から100%の生徒が、郷土の自然や文化、歴史、地域の偉人を学ぶ体験活動がよかったと回答している。コミュニティスクール・地域学校協働活動の開始と大きく関係している。</p> <p>コミュニティスクール・地域学校協働活動が始まり、地域の様々な方が関わってくださり、多くの学び機会を設定した。95%を超える生徒がよかったと回答している。3年生1学期は100%である。</p> <p>学校HPの最初の画面に、生徒の作品を載せたり、他校にはない定期的な更新を行った。各種の通信により、学校の様子を発信した。学校に各種情報が入り、活動の充実につながった。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・コミュニティスクール・地域協働活動の開始により、平成30年度は充実した体験活動ができた。さらに、郷土の自然や歴史、文化に触れる活動を発展させる。</p> <p>・教育活動の中に、地域の方々に多く入っていただいた。「地域」の全ての方を学校に力強く進める。</p> <p>・あらゆる方法や機会を通じて、学校の様子を保護者や地域に発信する。</p> <p>・2年目となる学而事人を活発に行う。</p>	<p>・コミュニティスクール「地域」の全ての方を学校に「具体的に」取り組んだ。地域学校協働本部を、郷土の先陣である清水安三先生の教えにちなみ、「学而事人室」と名付けたことは、推進していく上でよかった。必ず、毎日、数名が生徒昇降口で生徒を迎えたいことで、学校に変化があったのは評価できる。また、生徒に挨拶をすることで、自分自身も変化を感じた。地域での挨拶や声かけに気軽さを感じるようになった。学校を核にしたまちづくりである。</p>

<p>学校関係者評価</p>	<p>総評</p> <p>・「心豊かでたくましく生きる生徒の育成」という学校の教育目標を、十分達成できている。あいさつ・学力等、関係するアンケート項目の数値は、たいへん高い。朝の登校や挨拶は、前年度より大きく改善した。こういう点において、学校が変わったことは素晴らしいことである。「地域の全ての方を学校に」の方針をもとに、具体的な取組を数多く行ったこと、大きく関係がある。コミュニティスクールのスタートとともに、地域学校協働活動を積極的に進めたのは、高く評価できる。地域学校協働本部を「学而事人室」と名付け、郷土の先人の教えを取り入れたのは、生徒に響いたであろう。挨拶をする気持ちの変化は、生徒だけでなく関わった自分たちも、地域での挨拶や声掛けに変化が生まれた。学校を核にした地域づくりにもなっている。コミュニティスクールの目指すところを達成している。学校の設備や環境整備においても、地域の力が入っている。延べ人数で、千数百人という地域の方が、学校に入り込んでいる。学校の大改革である。生徒に強く伝わるころである。一部、90%を下回り、B評価もあるが、アンケート項目の多くが、90%超である。この結果の高さからみても、評定は十分Aに値する。</p>	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>学校関係者評価を踏まえての改善点</p> <p>・今年度より、コミュニティスクールがスタートしたことは学校の変化に大きくつながった。スタートにあたり、前年度末に、教育長より「小さく始めて少しずつできることを行っていく」と指示があり、できることから少しずつ積み重ねていった。「学而事人室」と名付けた地域学校協働本部は、目を追うことに大きく機能してきた。「学而事人」という郷土の先人である清水安三先生の教えを取り入れたことは、コミュニティスクールや地域学校協働活動を身近に感じ、推進する上でたいへんよかった。学校を核にしたまちづくりという、コミュニティスクールのねらいを十分に達成している。湖西中学校の教育目標である「心豊かで、たくましく生きる生徒の育成」に、より近づきやすくなった。今年度をもとにした積み上げを行うことが必要となる。「地域」の全ての方を学校に「力強く」進めるために、千数百人の地域の方の関わりをさらに増やし、千二人代にする。年に一度、学校に入ってきた方を増やしていきたい。自分のつけた力や持っている力を発揮するという「学而事人」を行う生徒は多かった。さらに上生徒を増やしていかなければならない。学力向上は、本校の大きな課題である。生徒が、「授業は楽しい」と感じるまで改善を行うしていきたい。ミニ学習会を学而事人室の取組として行ったが、地域の方でさらに学力を高める工夫をしていきたい。東京学芸大学をはじめ、外部との関係による研究を積極的に推進したい。</p>
----------------	--	--------------------	--